

平成 29 年 9 月 12 日
北広島市保健福祉計画検討委員会
障がい福祉部会 【 資料 3 】

平成 29 年度
北広島市障がい支援計画策定に向けた
市民意識調査

【調査結果】

平成 29 年 9 月
北広島市

調査概要	1
調査の目的	2
調査の方法	2
この報告書の見方	2
調査結果	3
あなたのことについて	5
問 1(1)性別.....	5
問 1(2)年齢.....	6
問 2 職業.....	7
問 3 障害者手帳を持っているか.....	8
問 4 だれと一緒に暮らしているか.....	9
問 5 家族に障がい児・者はいるか.....	11
問 6 普段、障がい児・者と交流しているか.....	12
障がいや障がい児・者に対する意識等について	13
問 7 障がいに関する言葉を知っているか.....	13
問 8 障がい児・者とふれあったことがあるか.....	14
付問 1 障がい児・者とふれあった理由.....	15
付問 2 障がい児・者とふれあいを持たなかった理由.....	16
問 9 障がい児・者に対してしてみたい支援等.....	17
問 10 「共生社会」という考え方を知っているか.....	18
問 11 差別や偏見があると思うか.....	19
付問 差別や偏見が改善されたと思うか.....	20
問 12 社会状況は、障がい児・者への対応や理解が十分あるか.....	21
付問 対応や理解が十分ではないと感じる場面等.....	22
障がい児教育や障がい者の仕事について	23
問 13 障がい児教育や障がい者の就労に関する言葉を知っているか.....	23
問 14 障がい児の健全な育成のために必要だと思う取り組み.....	24
問 15 仕事場に障がい者が働いているか.....	25
問 16 障がい者がもっと働けるようにするための取り組み.....	26
障がい児・者と共生できるまちづくりについて	27
問 17 障がい福祉に関する情報の市民への伝達.....	27
問 18 障がい福祉に関する情報の入手場所.....	28
問 19 地域の中で障がい児・者にとって暮らしにくいと思うこと.....	29

問 20 地域や社会に積極的に参加できるようにするために大切なこと30

自由記入設問

問 21 障がい児・者の福祉に関して、どういうところに力を入れてほしいですか。 __31

調査概要

調査の目的

北広島市では、「北広島市障がい支援計画」の策定にあたり、市民の皆さまに障がい福祉に関する意識、意見などを把握し、計画策定や施策推進に役立てることを目的としたアンケート調査を実施しました。

調査の方法

- 調査対象: 20歳以上 65歳未満の市民(無作為抽出)
- 調査期間: 平成 29 年 7 月 4 日～7 月 31 日
- 調査方法: 郵送配布・郵送回収
- 配布・回収状況:

	配布数	回収数	回収率
住民対象	700 票	274 票	39.1%

この報告書の見方

この報告書の分析結果を読む際の留意点は以下のとおりです。

- 「調査結果」の図表は、原則として回答者の構成比(百分率)で表現しています。
- 「n」は、「Number of case」の略で、構成比算出の母数を示しています。
- 百分率による集計では、回答者数(該当質問においては該当者数)を 100%として算出し、本文及び図表の数字に関しては、全て小数第 2 位以下を四捨五入し、小数第 1 位までを表記します。このため、全ての割合の合計が 100%にならないことがあります。また、複数回答の設問では、全ての割合の合計が 100%を超えることがあります。

調查結果

あなたのことについて

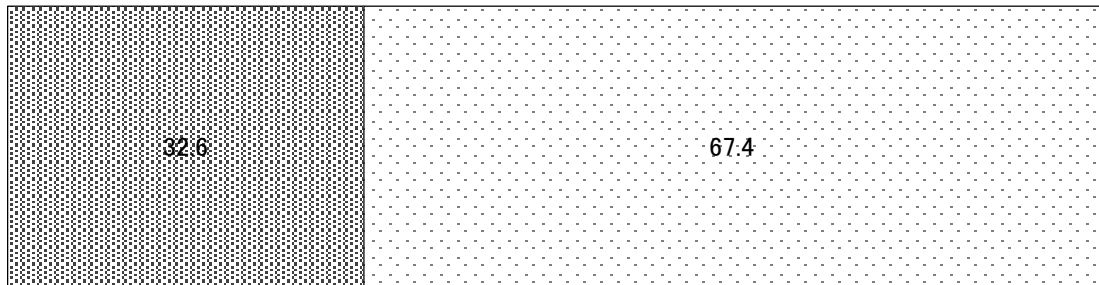
問1 あなたの性別と年齢をお答えください。(それぞれ1つに○)

(1) 性別

性別は、「男性」が32.6%、「女性」が67.4%となっています。

【性別】

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



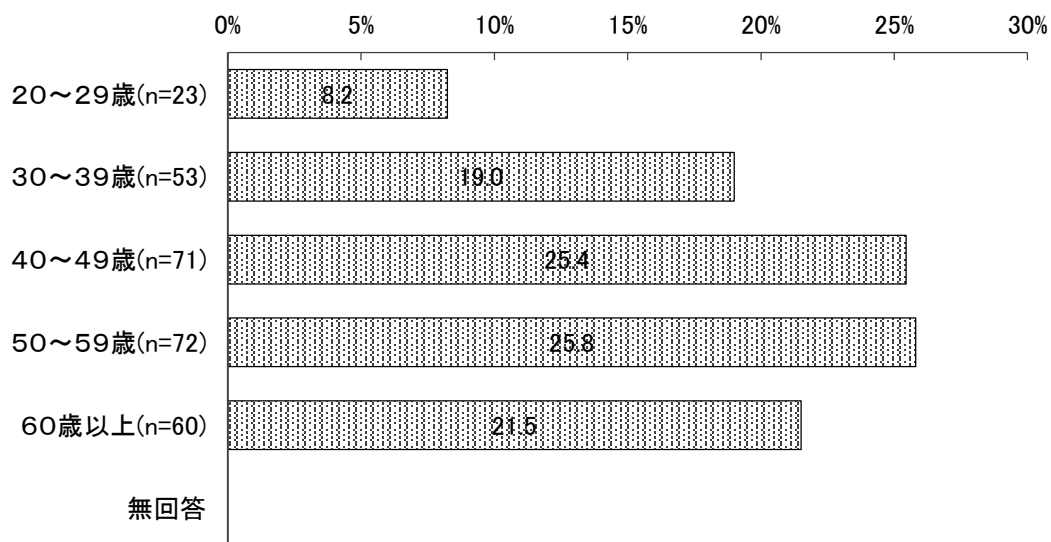
(n=279)

■ 男性 □ 女性 ■ その他

(2) 年齢

年齢は、「50～59歳」が25.8%と最も高く、次いで「40～49歳」が25.4%、「60歳以上」が21.5%となっています。

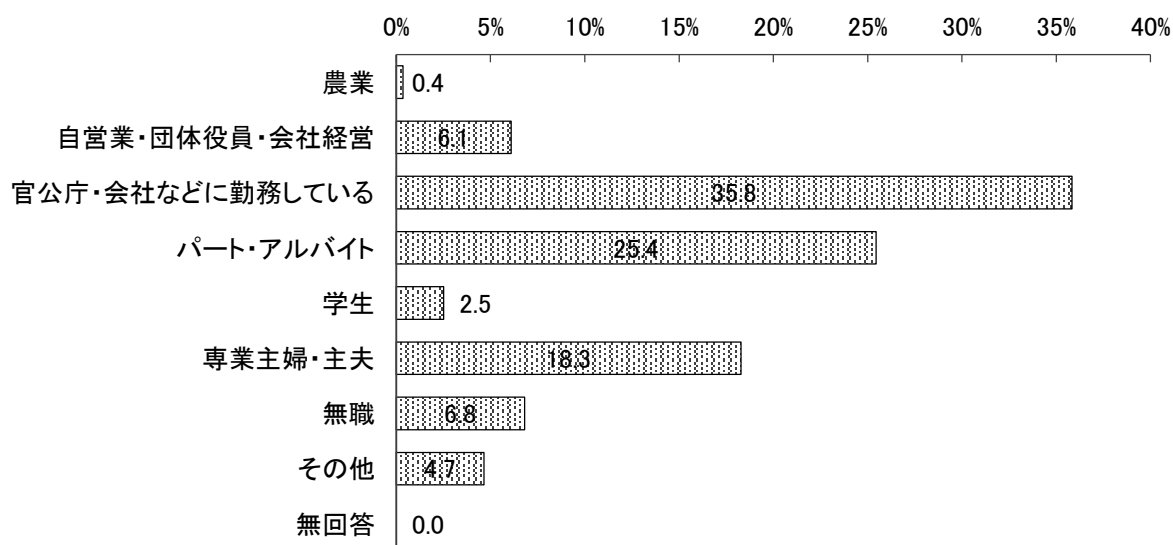
【年齢】



問2 あなたの職業は次のうちどれですか。(1つに○)

職業は、「官公庁・会社などに勤務している」が35.8%と最も高く、次いで「パート・アルバイト」が25.4%、「専業主婦・主夫」が18.3%、「無職」が6.8%、「自営業・団体役員・会社経営」が6.1%となっています。

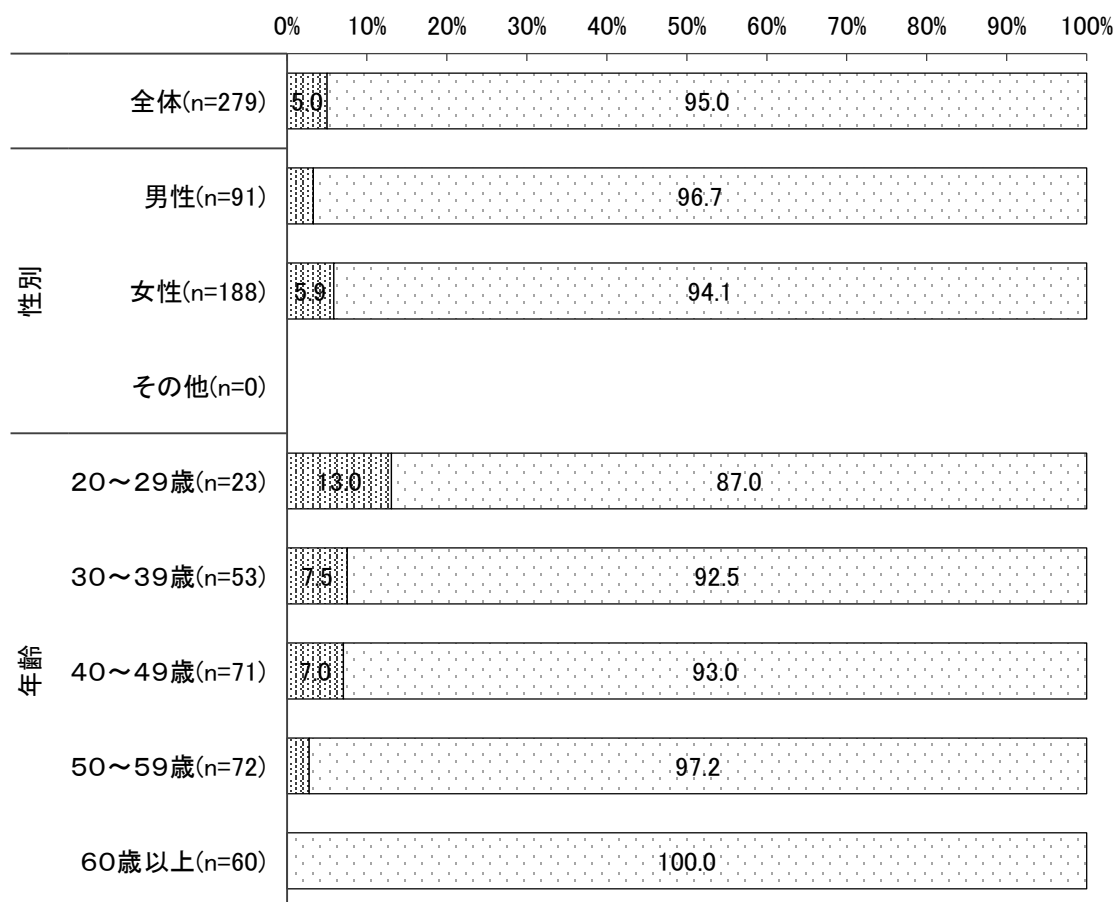
【職業】



問3 あなたは、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳のうち一つ、または複数をお持ちですか。(1つに○)

障害者手帳所持の有無は、全体で見ると「持っていない」が95.0%、「持っている」が5.0%となっています。

【障害者手帳を持っているか】



持っている
 持っていない
 無回答

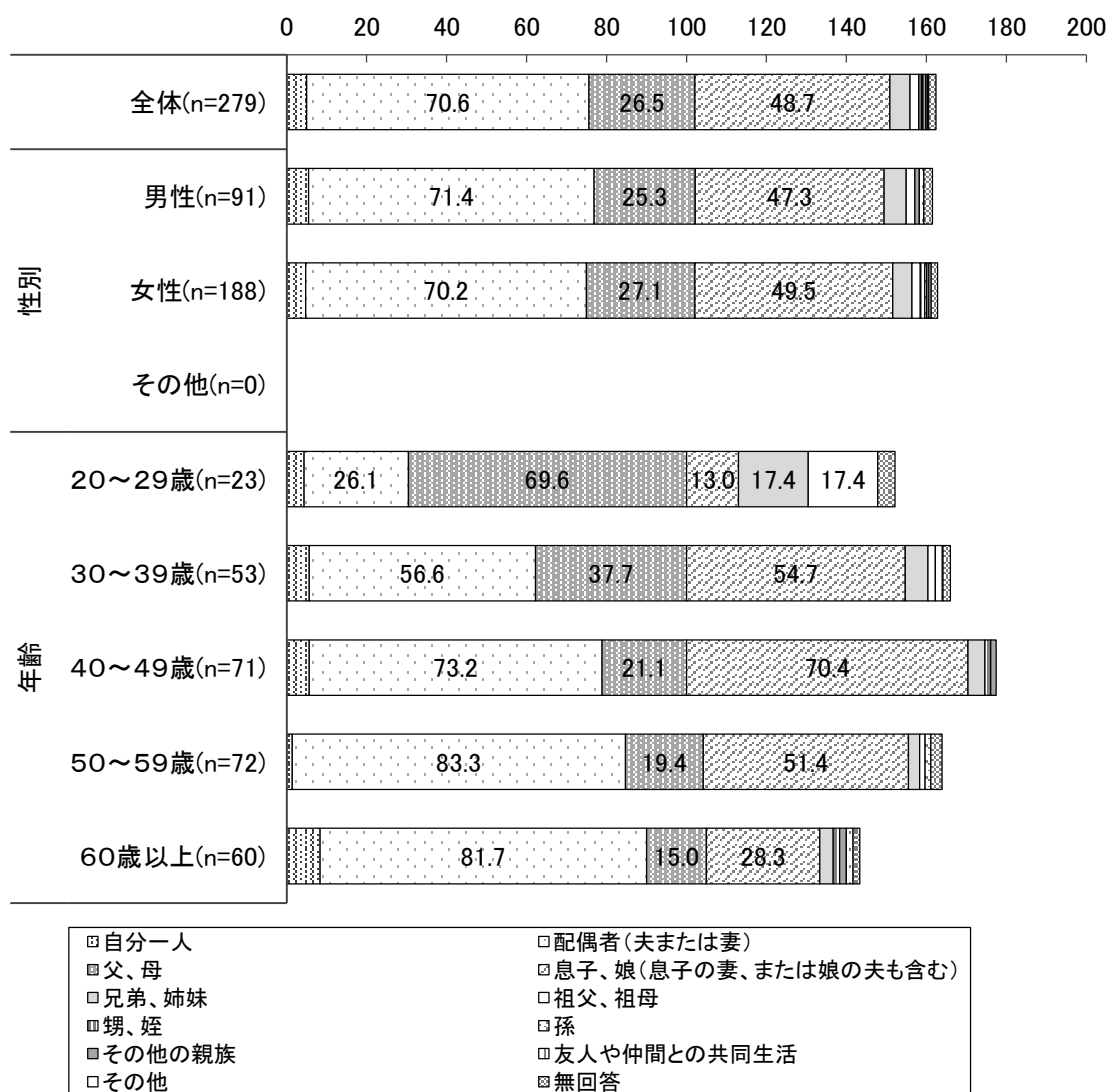
問4 あなたのご家族についてお答えください。あなたと一緒に住んでいるご家族は次のうちどなたですか。(いくつでも○)また、あなたを含めて何名と暮らしていますか。(数字を記入)

問4-① あなたと一緒に住んでいるご家族は次のうちどなたですか。

一緒に暮らしている人は、全体で見ると「配偶者(夫または妻)」が70.6%と最も高く、次いで「息子、娘(息子の妻、または娘の夫も含む)」が48.7%、「父、母」が26.5%となっています。

属性別で「配偶者(夫または妻)」の割合をみると、年齢階級別では50～59歳が83.3%と最も高く、20～29歳は26.1%と最も低くなっています。

【だれと一緒に暮らしているか】

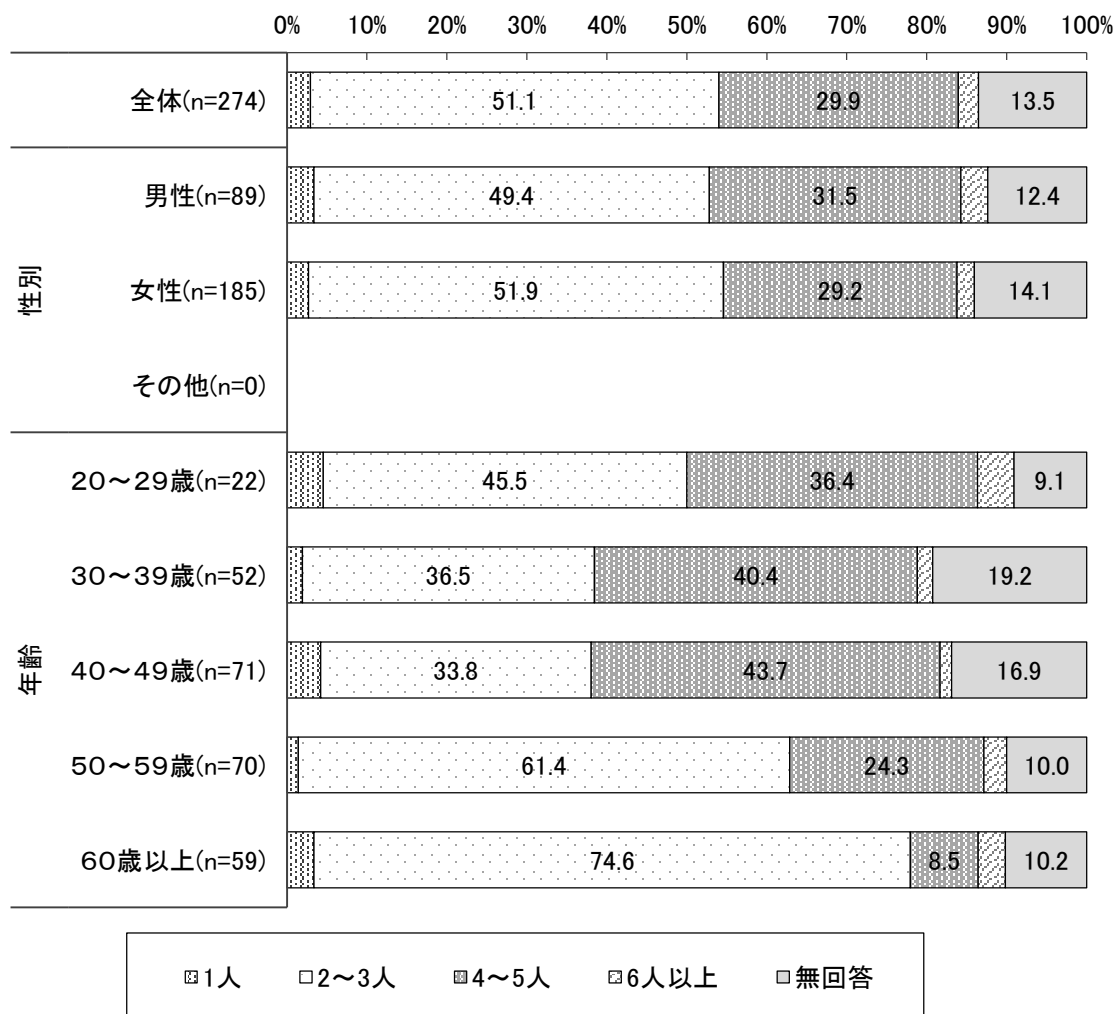


問 4-② あなたを含めて何名と暮らしていますか。

何名と一緒に暮らしているかは、全体で見ると「2～3人」が51.1%と最も高く、次いで「4～5人」が29.9%となっています。

属性別で「4～5人」の割合をみると、年齢階級別では30～39歳が40.4%、40～49歳が43.7%と他項目と比べると高めの割合となっています。

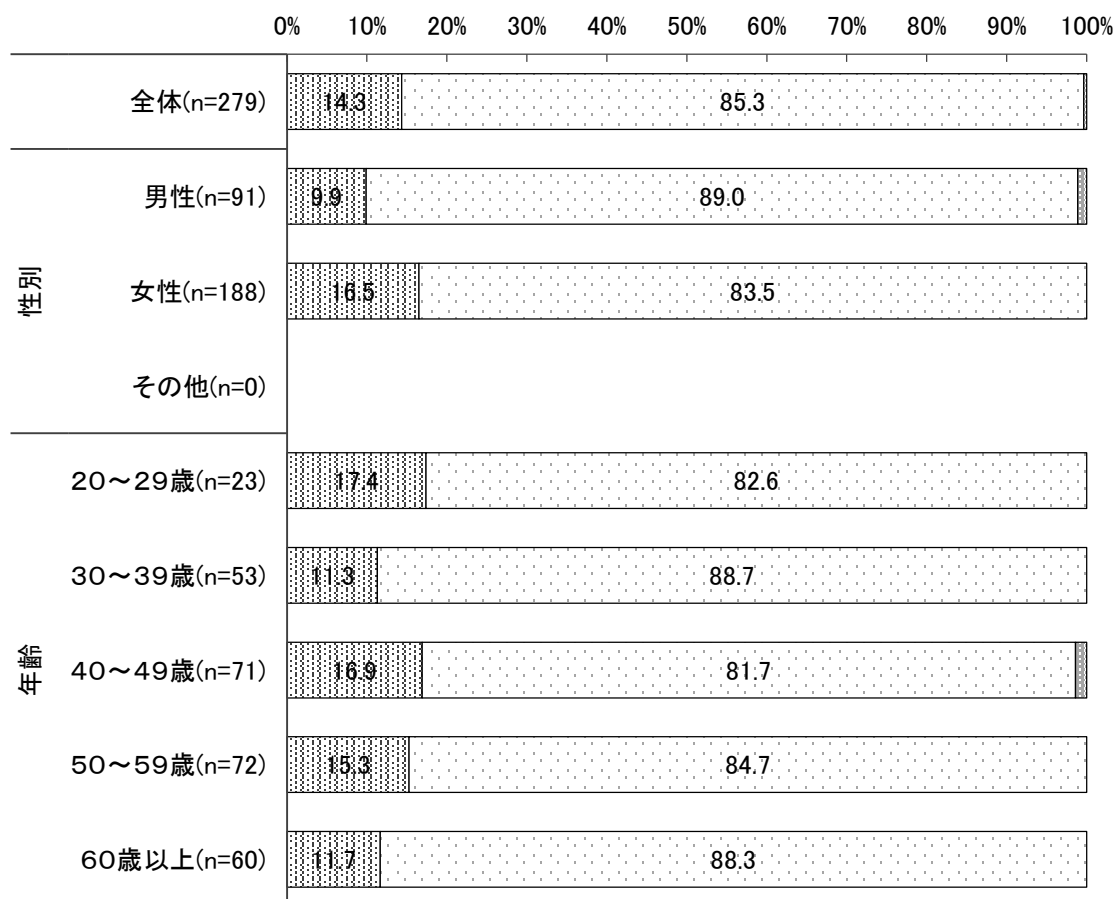
【何名と一緒に暮らしているか】



問5 あなたのご家族に障がい児・者はいますか。(1つに○)

家族に障がい児・者がいるかは、全体で見ると「いる」が14.3%、「いない」が85.3%となっています。

【家族に障がい児・者はいるか】

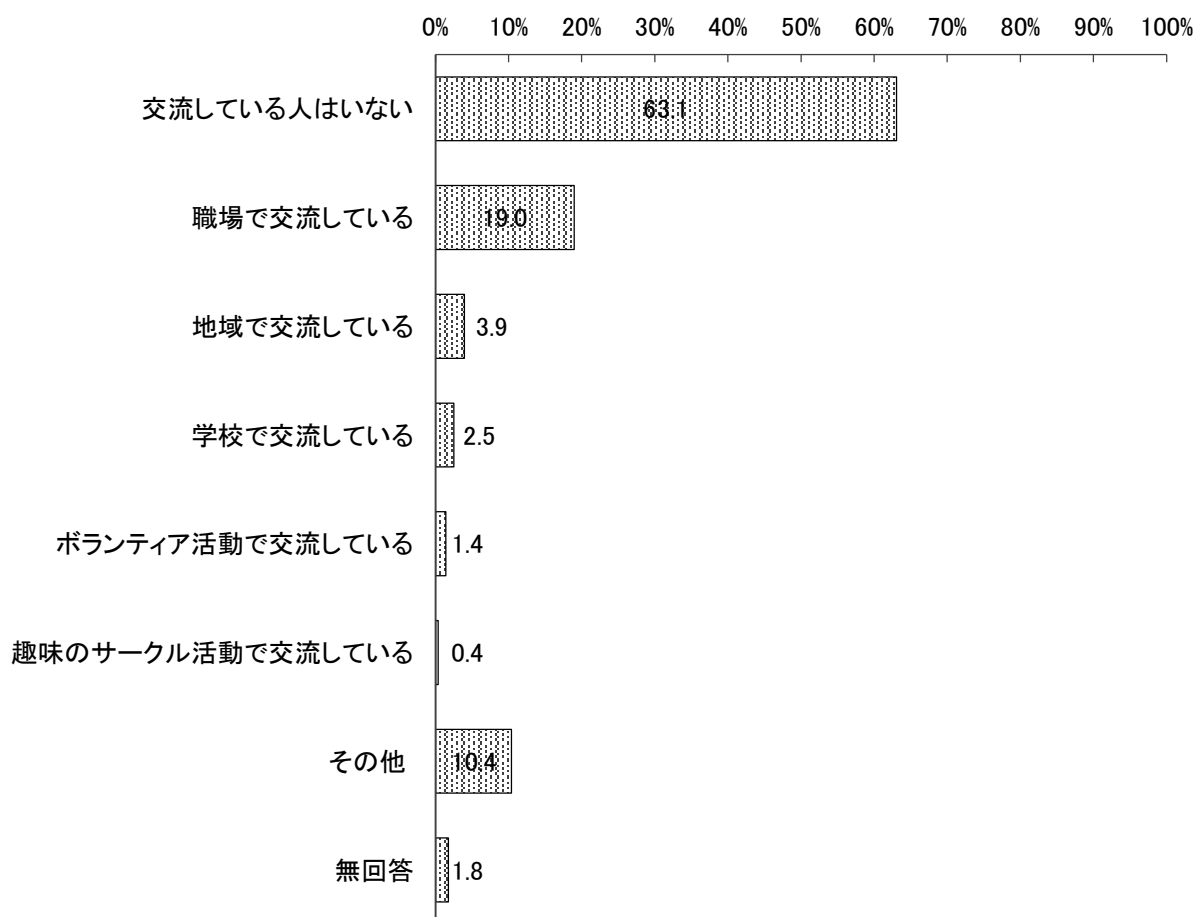


いる
 いない
 無回答

問6 あなたは普段、障がい児・者と交流していますか。(いくつでも○)

普段障がい児・者と交流しているかは、全体で見ると「交流している人はいない」が63.1%と最も高く、次いで「職場で交流している」が19.0%となっています。

【普段、障がい児・者と交流しているか】



(n=279)

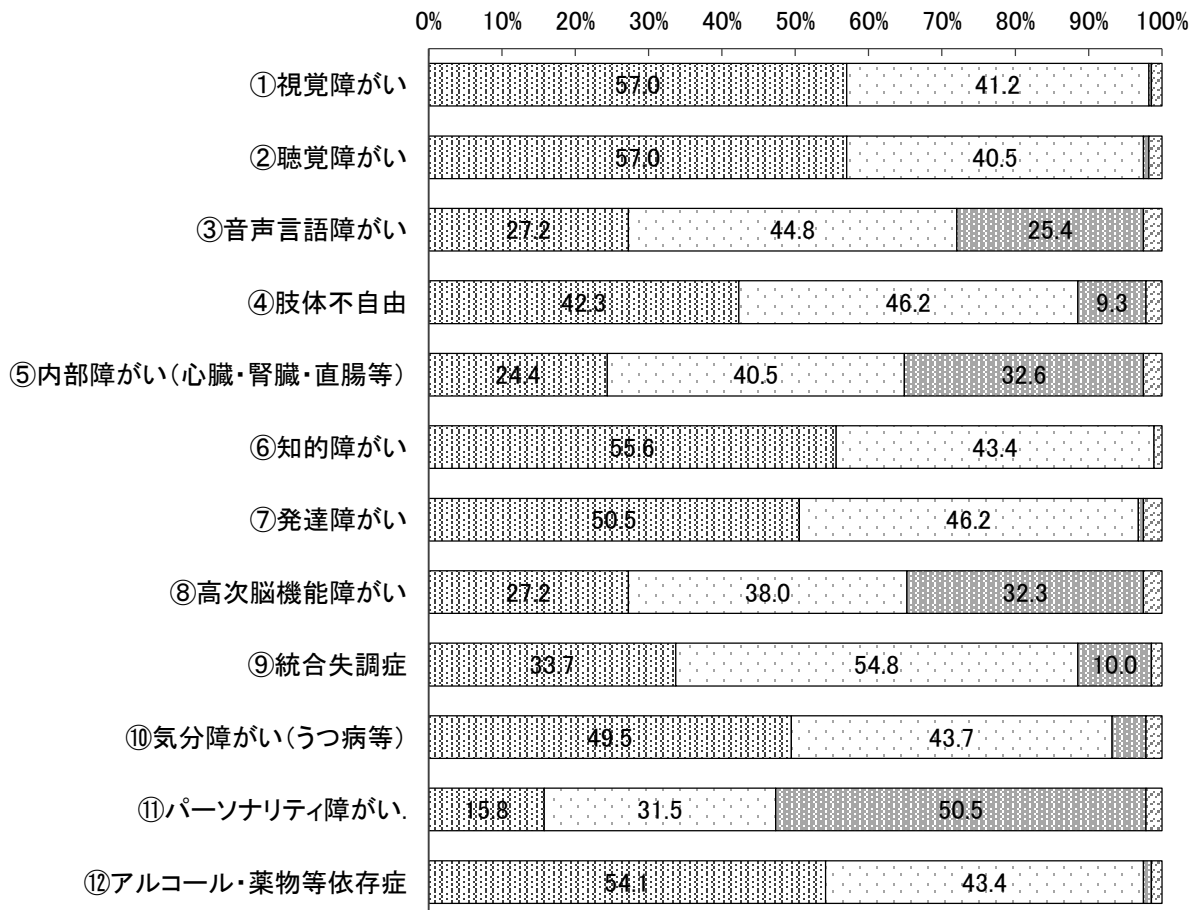
障がいや障がい児・者に対する意識等について

問 7 障がいについておたずねします。つぎの言葉を知っていますか。また、どの程度知っ

ていますか。(それぞれ1つに○)

障がいに関する言葉を知っているかは、「内容までよく知っている」では「視覚障がい」と「聴覚障がい」が同水準の57.0%と最も高く、次いで「知的障がい」が55.6%、「アルコール・薬物等依存症」が54.1%となっています。また「はじめて聞いた」では「パーソナリティ障がい」が50.5%と最も高くなっています。

【障がいに関する言葉を知っているか】



■ 内容までよく知っている

□ 言葉だけは知っている

■ はじめて聞いた

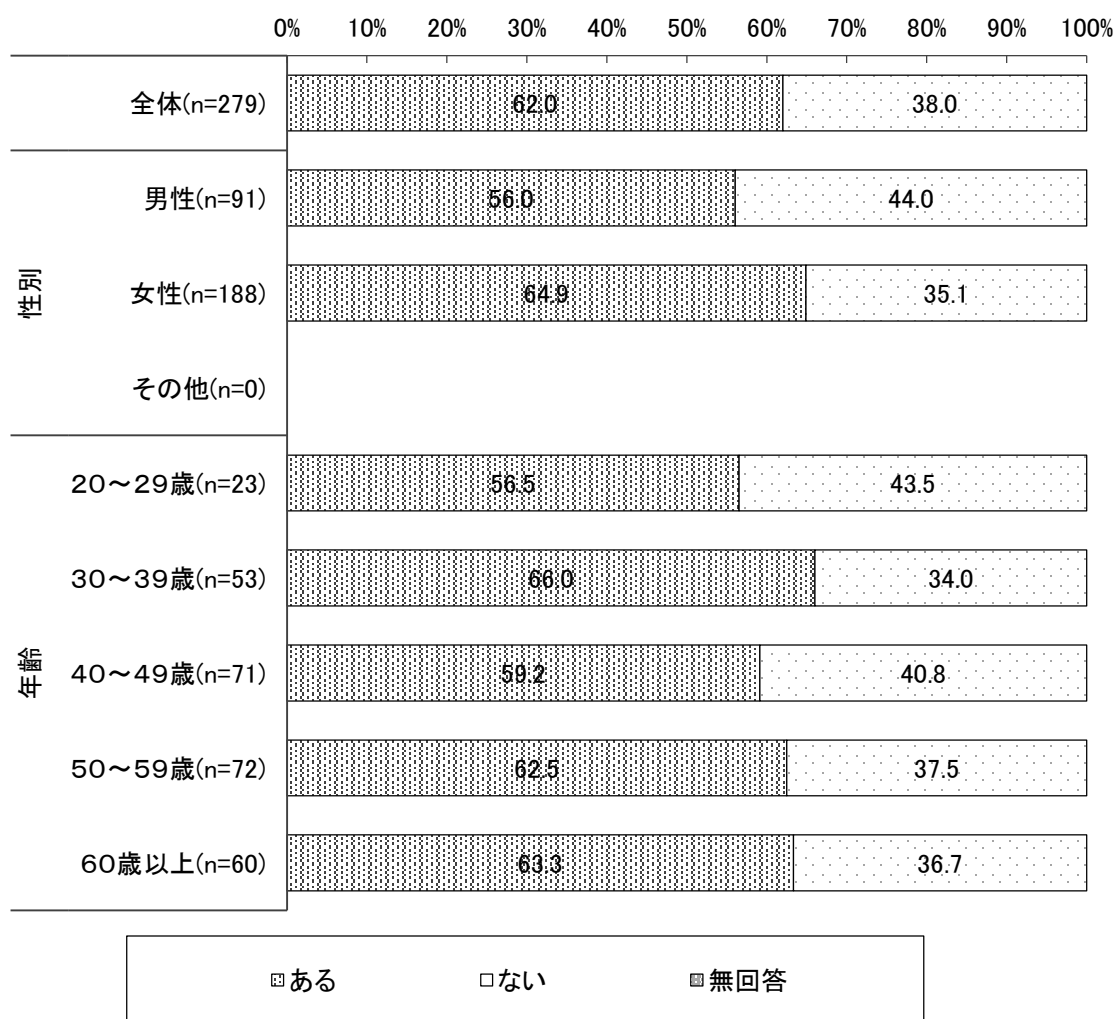
■ 無回答

問 8 あなたは、障がい児・者と気軽に話したり、手助けしたことがありますか。(1 つに
○)

障がい児・者とふれあったことがあるかは、全体でみると「ある」が 62.0%、「ない」が 38.0%
となっています。

属性別で「ある」の割合をみると、性別では男性が 56.0%、女性が 64.9%と女性のほうがやや
高く、8.9 ポイントの差があります。

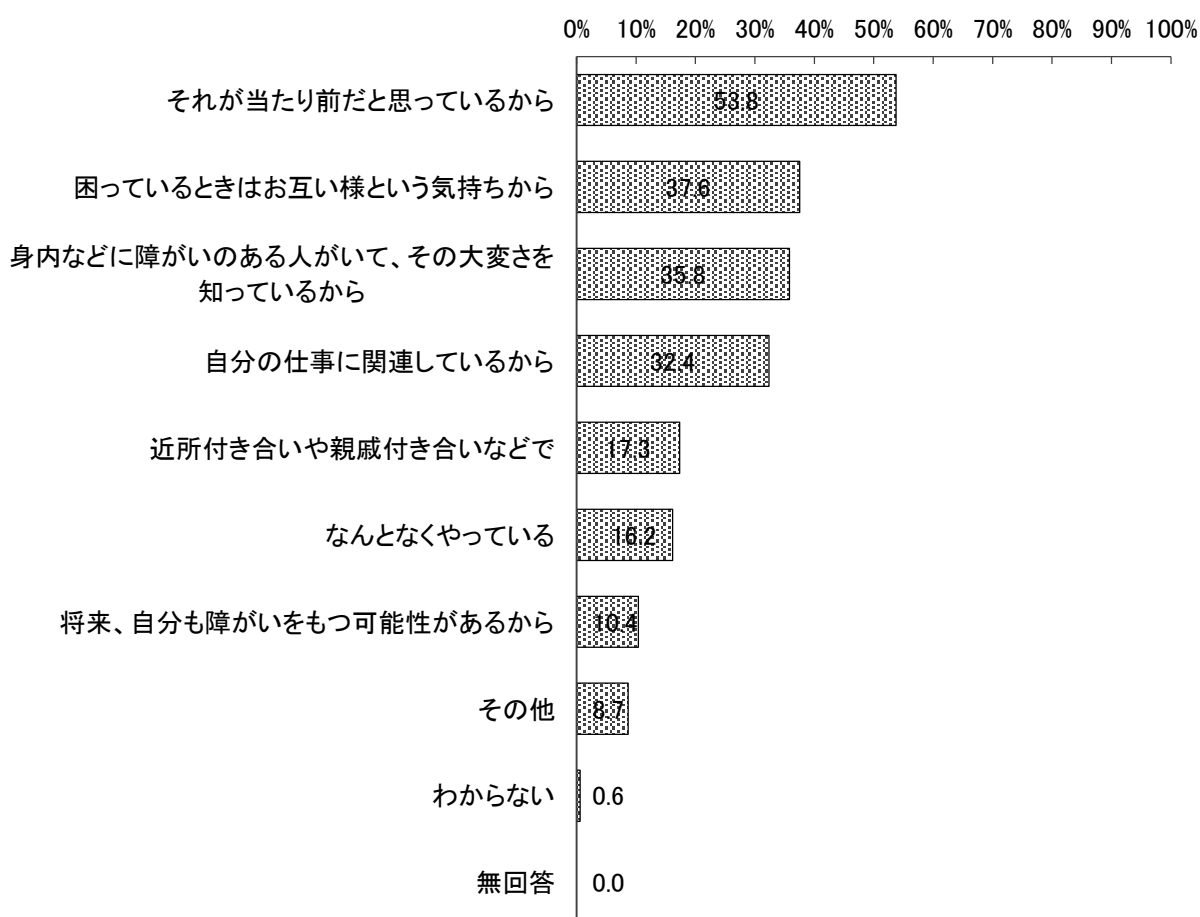
【障がい児・者とふれあったことがあるか】



付問1 問8で「1. ある」と答えた方にお聞きします。それはどのような気持ちからでしょうか。(いくつでも○)

障がい児・者とふれあった理由は、全体で見ると「それが当たり前だと思っているから」が53.8%と最も高く、次いで「困っているときはお互い様という気持ちから」が37.6%、「身内などに障がいのある人がいて、その大変さを知っているから」が35.8%、「自分の仕事に関連しているから」が32.4%となっています。

【障がい児・者とふれあった理由】

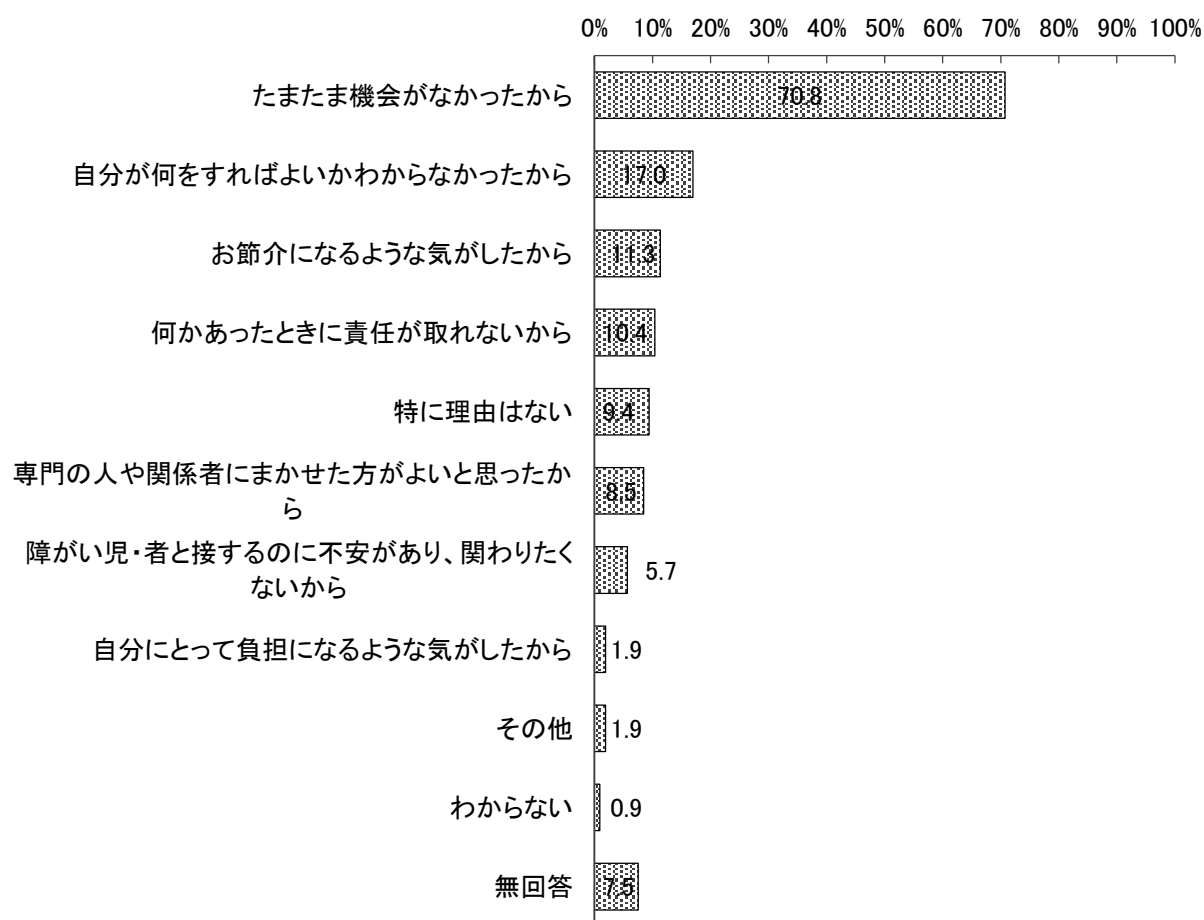


(n=173)

付問2 問8で「2. ない」と答えた方にお聞きします。それはどのような気持ちからでしょうか。(いくつでも○)

障がい児・者とふれあいを持たなかった理由は、全体で見ると「たまたま機会がなかったから」が70.8%と最も高く、次いで「自分が何をすればよいかわからなかったから」が17.0%、「お節介になるような気がしたから」が11.3%となっています。

【障がい児・者とふれあいを持たなかった理由】



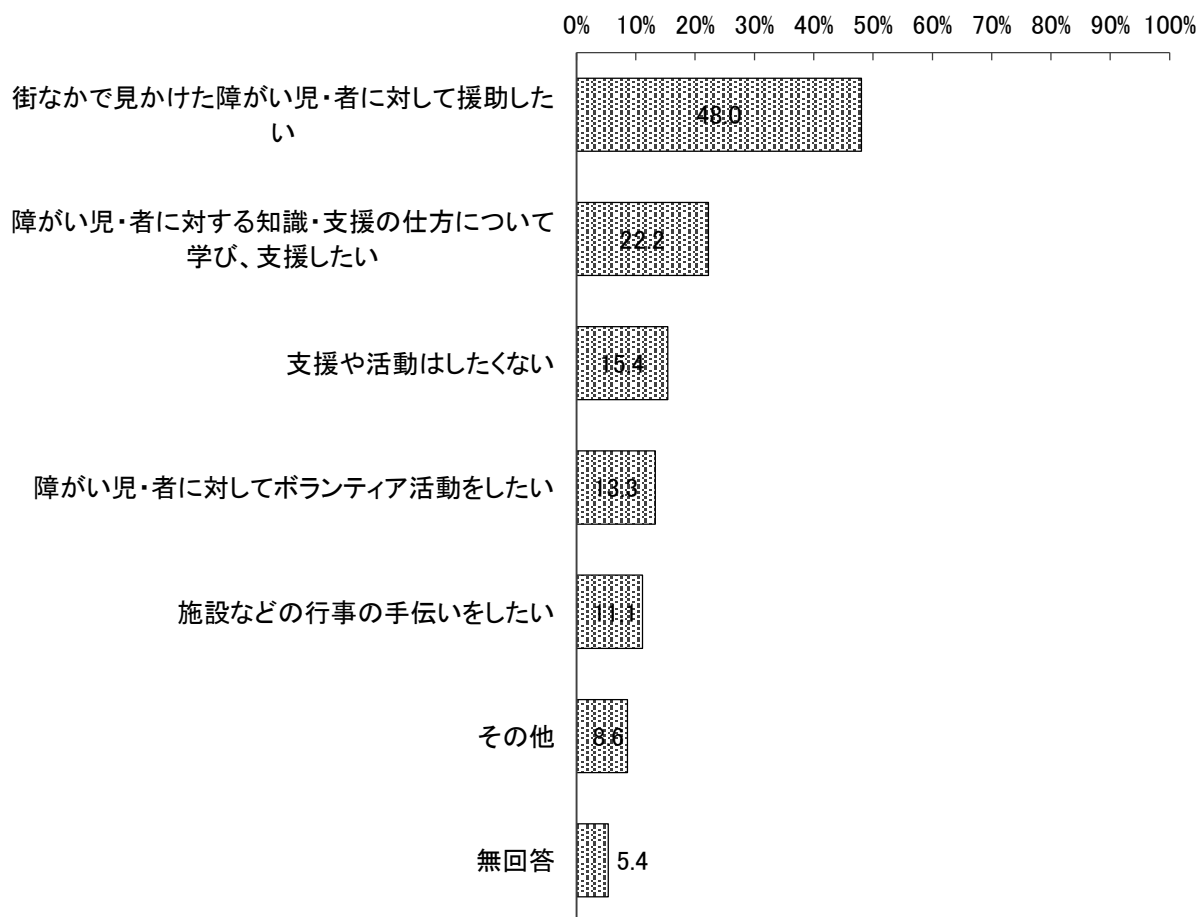
(n=106)

問9 あなたは、障がい児・者に対してどんな支援や活動をしてみたいですか。

(いくつでも○)

障がい児・者に対してしてみたい支援等は、全体で見ると「街なかで見かけた障がい児・者に対して援助したい」が48.0%と最も高く、次いで「障がい児・者に対する知識・支援の仕方について学び、支援したい」が22.2%、「支援や活動はしたくない」が15.4%となっています。

【障がい児・者に対してしてみたい支援等】



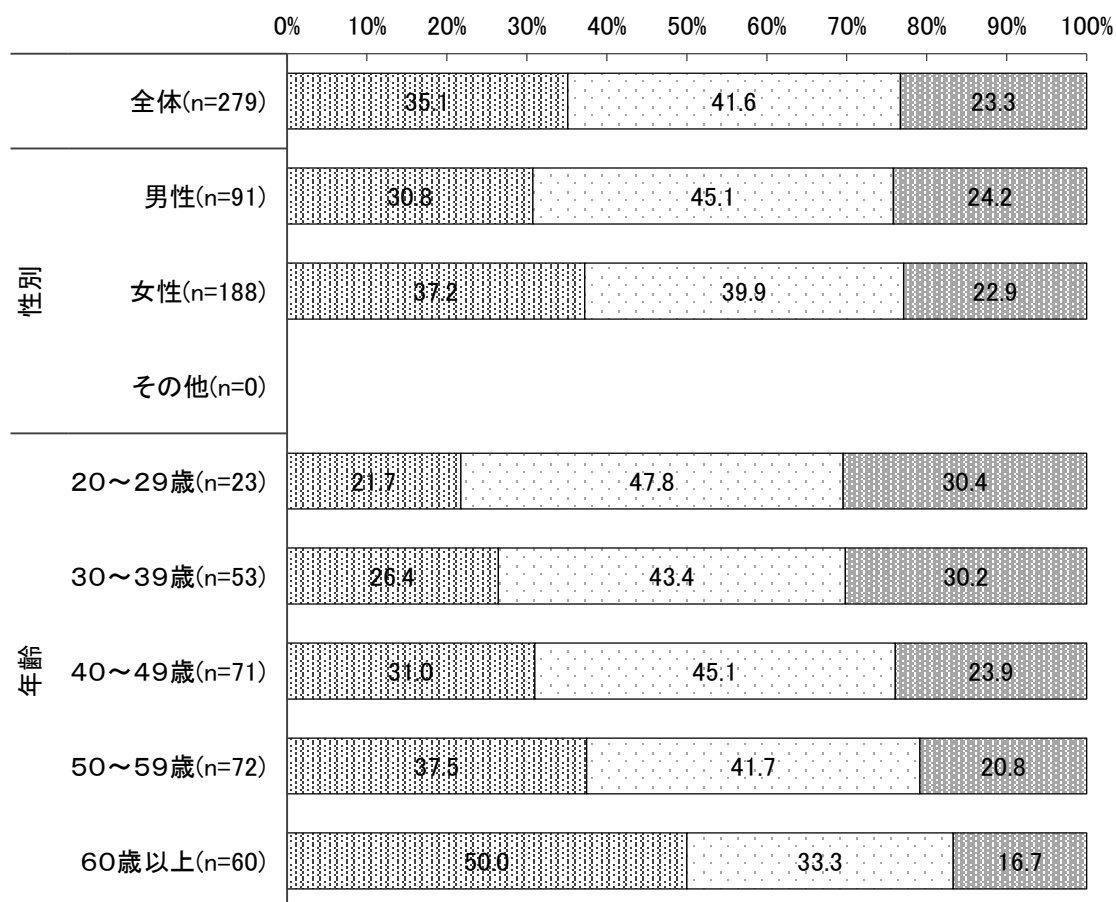
(n=279)

問 10 あなたは、障がいのある・なしにかかわらず、誰もが社会の一員としてお互いを尊重し、支え合って暮らすことを目指す「共生社会」という考え方を知っていますか。
(1 つに○)

「共生社会」という考え方を知っているかは、全体で見ると「言葉だけは知っている」が 41.6% と最も高く、次いで「知っている」が 35.1%、「知らない」が 23.3%となっています。

属性別で「知っている」の割合をみると、年齢階級別では 20～29 歳が 21.7%と最も低く、60 歳以上が 50.0%と最も高くなっています。年齢が上がるごとに割合が高くなる傾向がみられます。

【「共生社会」という考え方を知っているか】



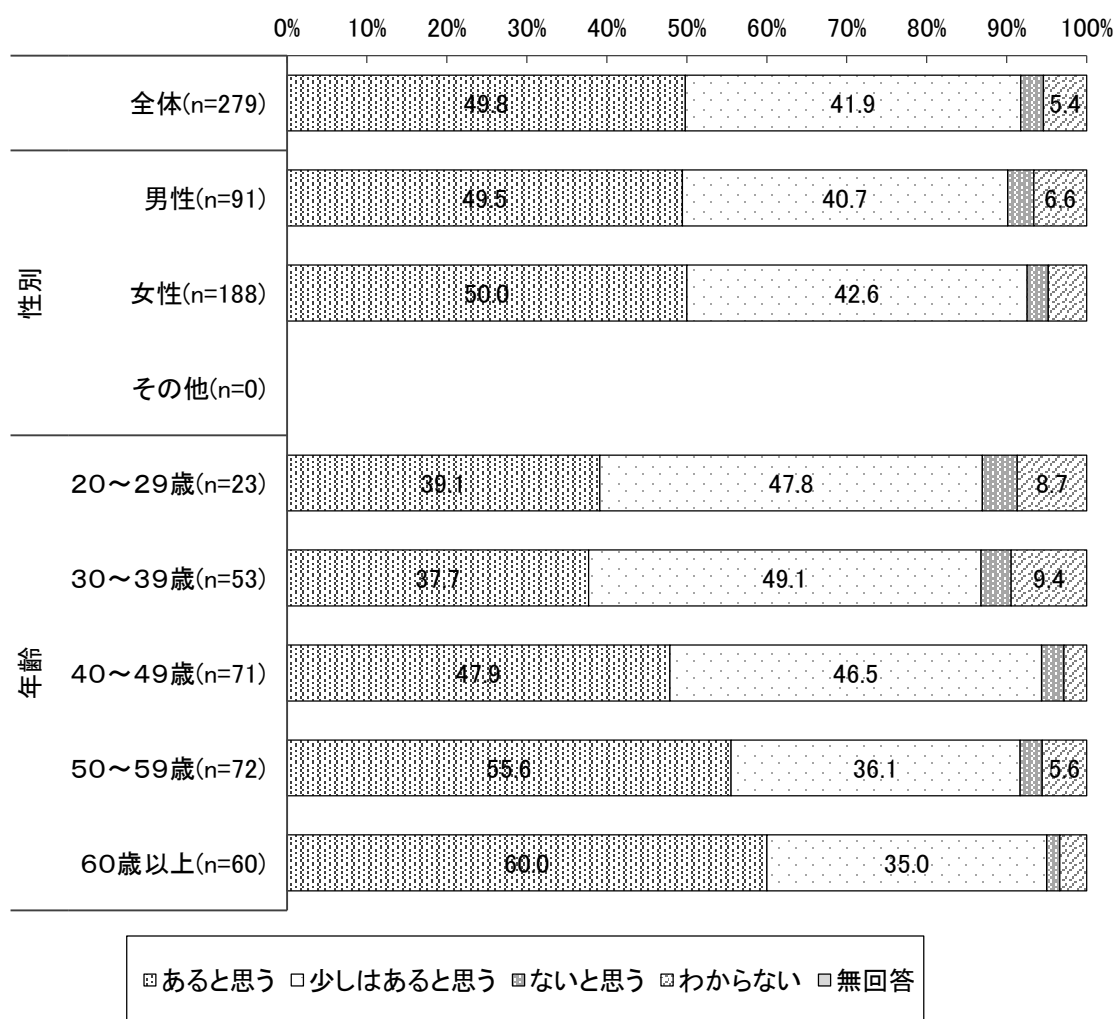
知っている
 言葉だけは知っている
 知らない
 無回答

問 11 社会の状況は、障がい児・者に対する差別や偏見があると思いますか。(1つに○)

社会の状況は障がい児・者に対する差別や偏見があると思うかは、全体で見ると「あると思う」が49.8%と最も高く、次いで「少しはあると思う」が41.9%、「わからない」が5.4%となっています。

属性別で「あると思う」の割合をみると、年齢階級別では50～59歳が55.6%、60歳以上が60.0%とやや高めとなっています。

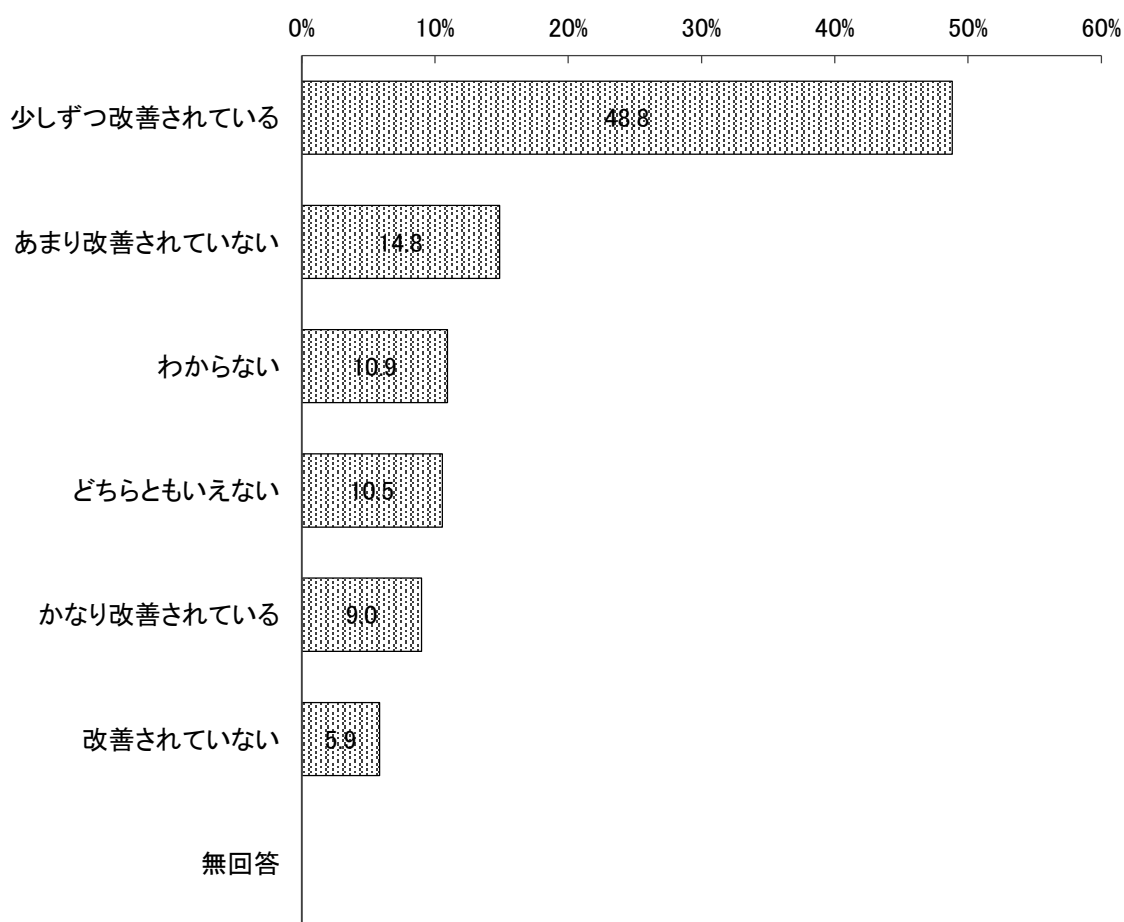
【差別や偏見があると思うか】



付問 問11で「1. あると思う」「2. 少しはあると思う」と答えた方にお聞きします。10年前と比べ、障がい児・者に対する差別や偏見は改善されたと思いますか。(1つに○)

障がい児・者に対する差別や偏見が改善されたと思うかは、全体でみると「少しずつ改善されている」が48.8%と最も高く、次いで「あまり改善されていない」が14.8%、「わからない」が10.9%となっています。

【差別や偏見が改善されたと思うか】



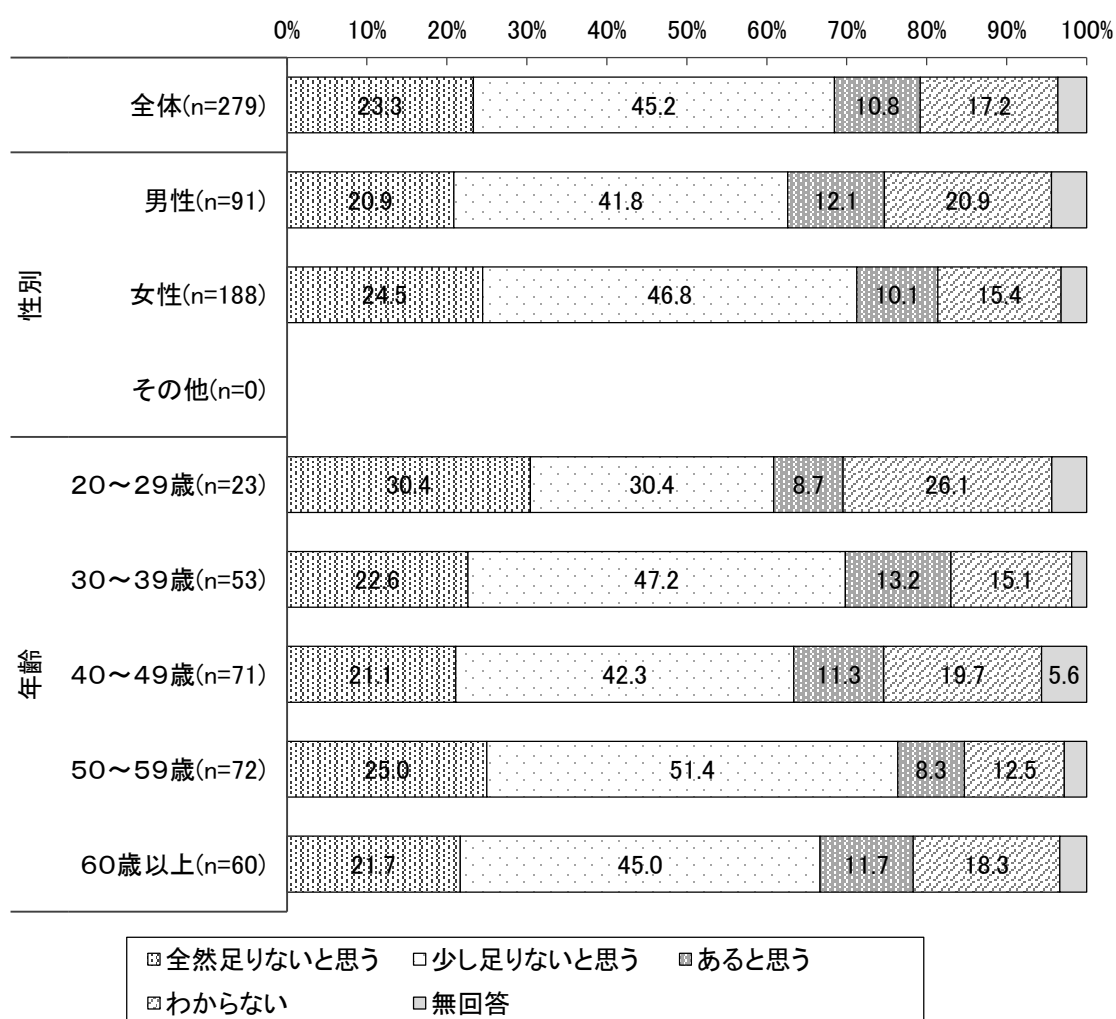
(n=256)

問 12 社会の状況は、障がい児・者への対応や理解が十分あると感じますか。(1つに○)

社会の障がい児・者への対応や理解が十分にあると感じるかは、全体で見ると「少し足りないと思う」が45.2%と最も高く、次いで「全然足りないと思う」が23.3%、「わからない」が17.2%となっています。

属性別で「全然足りないと思う」の割合をみると、年齢階級別では20～29歳が30.4%、50～59歳が25.0%とそれぞれ全体の23.3%をやや上回っています。

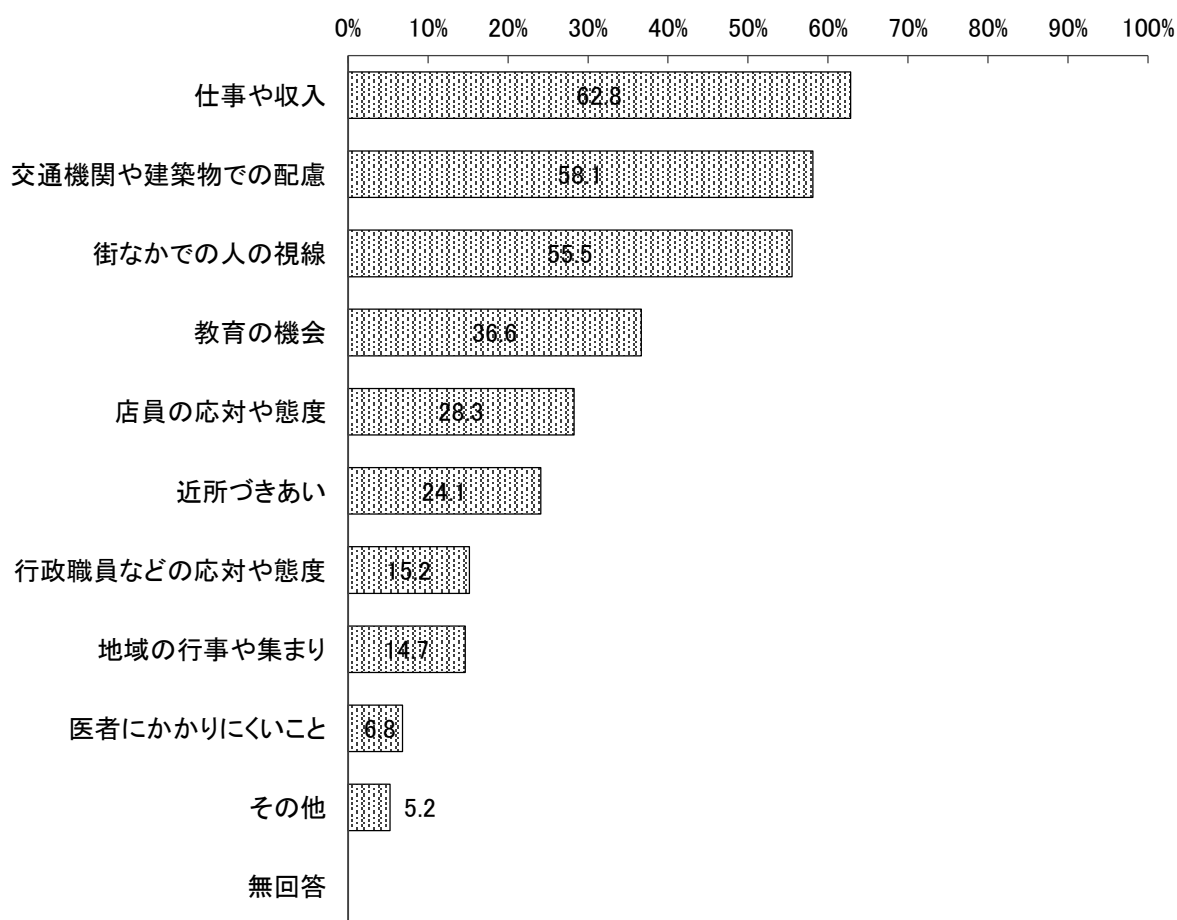
【障がい児・者への対応や理解が十分にあると感じるか】



付問 問 12 で「1. 全然足りないと思う」「2. 少し足りないと思う」と答えた方にお聞きします。それはどんな場面や状況においてですか。(いくつでも○)

どんな場面や状況において対応や理解が十分ではないと感じるかは、全体でみると「仕事や収入」が 62.8%と最も高く、次いで「交通機関や建築物での配慮」が 58.1%、「街なかでの人の視線」が 55.5%、「教育の機会」が 36.6%となっています。

【対応や理解が十分ではないと感じる場面等】



(n=191)

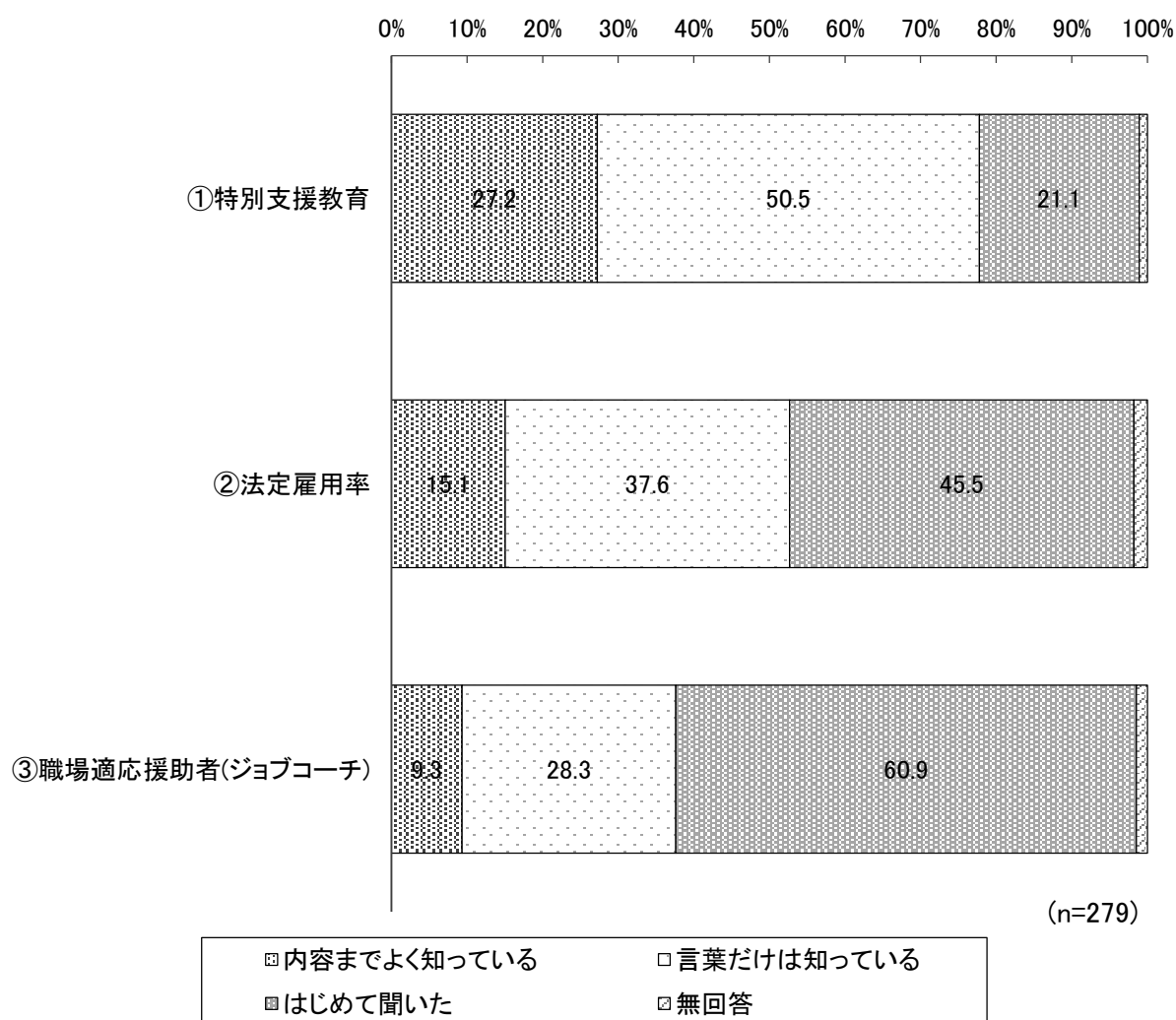
障がい児教育や障がい者の仕事について

問 13 障がい児教育や障がい者の就労に関する次の言葉を知っていますか。

(それぞれ1つに○)

障がい児教育や障がい者の就労に関する言葉を知っている人の割合は、「内容までよく知っている」では「特別支援教育」が27.2%と最も高くなっています。また「はじめて聞いた」では「職場適応援助者(ジョブコーチ)」が60.9%と最も高くなっています。

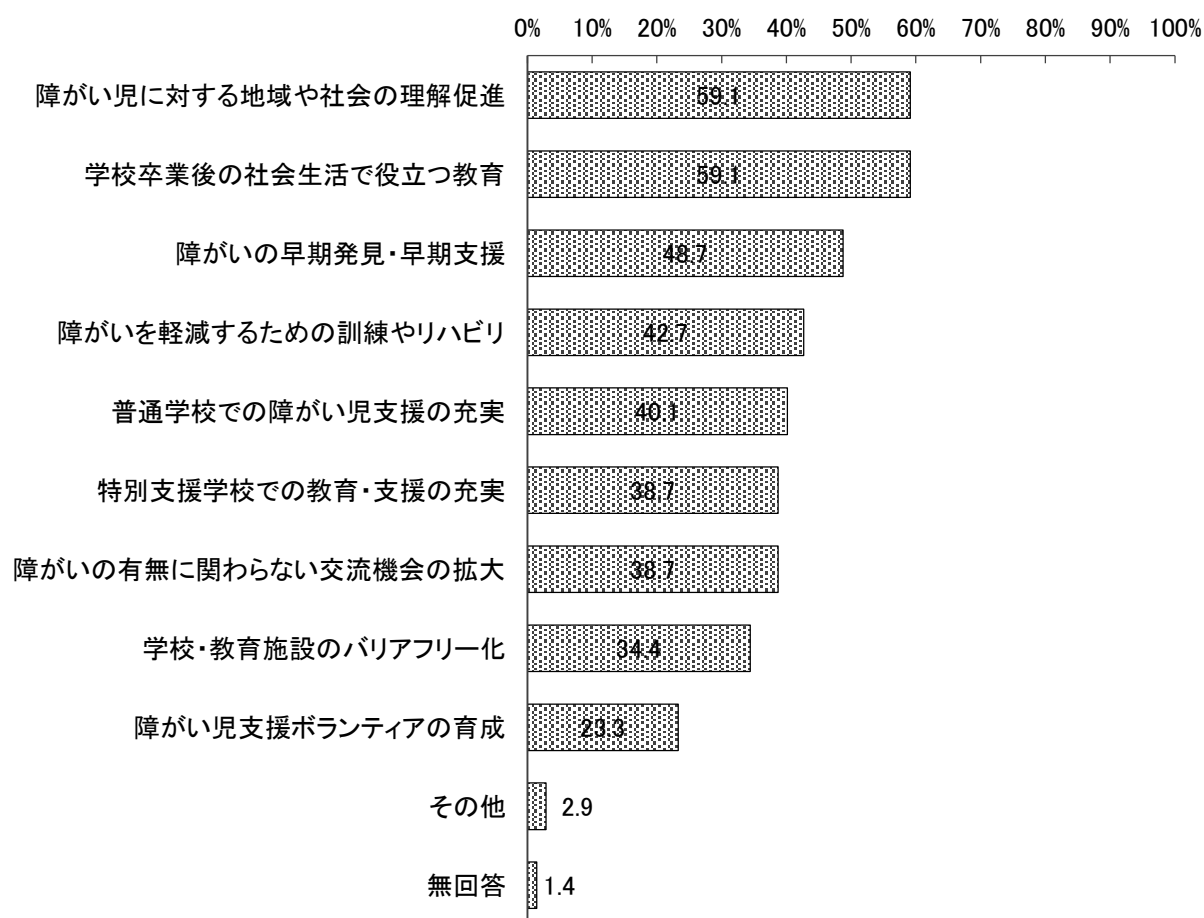
【障がい児教育や障がい者の就労に関する言葉を知っている人】



問14 障がい児の健全な育成のために、今後どのような取り組みが必要だと思いますか。
(いくつでも○)

障がい児の健全な育成のために、必要だと思う取り組みは、全体で見ると「障がい児に対する地域や社会の理解促進」と「学校卒業後の社会生活で役立つ教育」が59.1%と最も高く、次いで「障がいの早期発見・早期支援」が48.7%、「障がいを軽減するための訓練やリハビリ」が42.7%となっています。

【障がい児の健全な育成のために、必要だと思う取り組み】

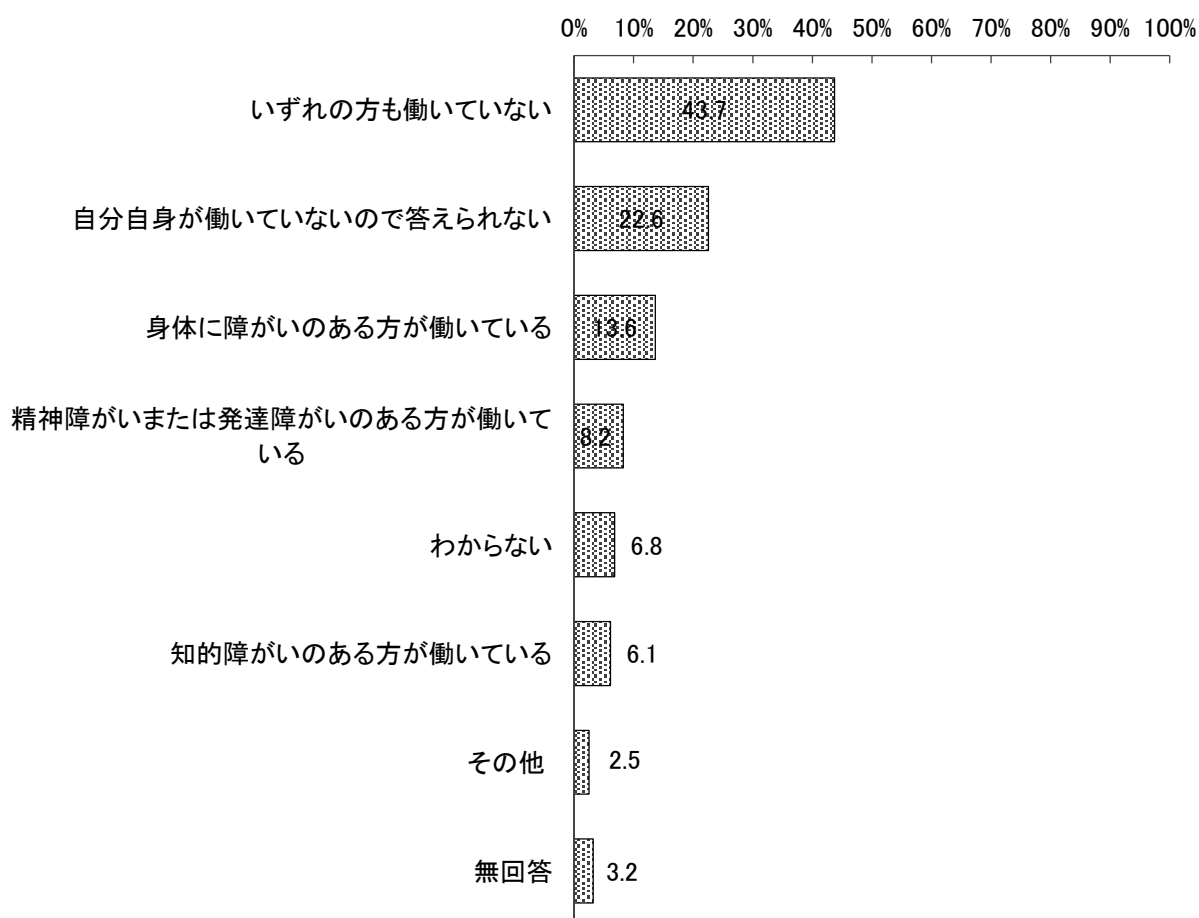


(n=279)

問 15 あなたの現在の職場では、障がい者が働いていますか。(いくつでも○)

職場に障がい者が働いているかは、全体で見ると「いずれの方も働いていない」が 43.7%と最も高く、次いで「自分自身が働いていないので答えられない」が 22.6%、「身体に障がいのある方が働いている」が 13.6%となっています。

【職場に障がい者が働いているか】

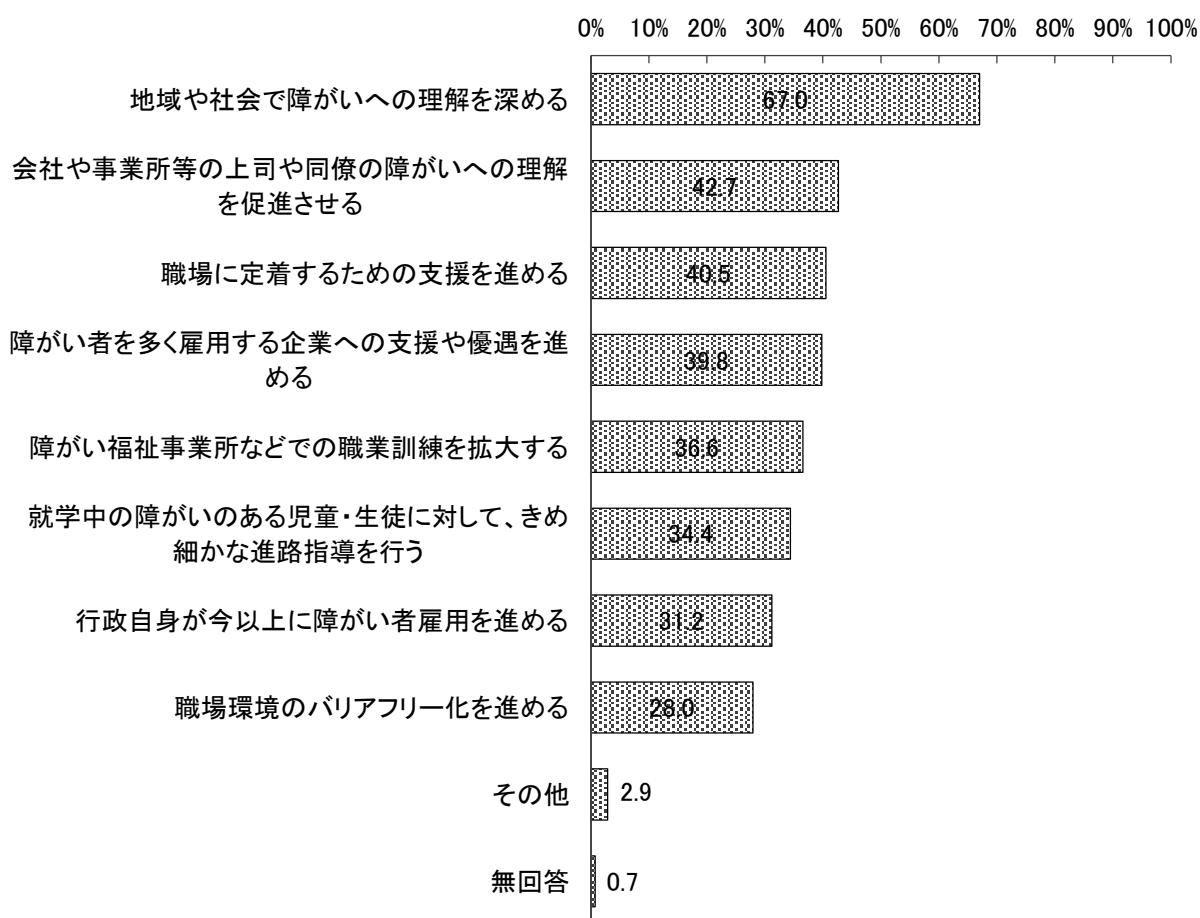


(n=279)

問 16 障がい者がもっと働けるようにするためには、どうすればよいと思いますか。
 (いくつでも○)

障がい者がもっと働けるようにするための取り組みについては、全体で見ると「地域や社会で障がいへの理解を深める」が 67.0%と最も高く、次いで「会社や事業所等の上司や同僚の障がいへの理解を促進させる」が 42.7%、「職場に定着するための支援を進める」が 40.5%となっています。

【障がい者がもっと働けるようにするための取り組み】



(n=279)

障がい児・者と共生できるまちづくりについて

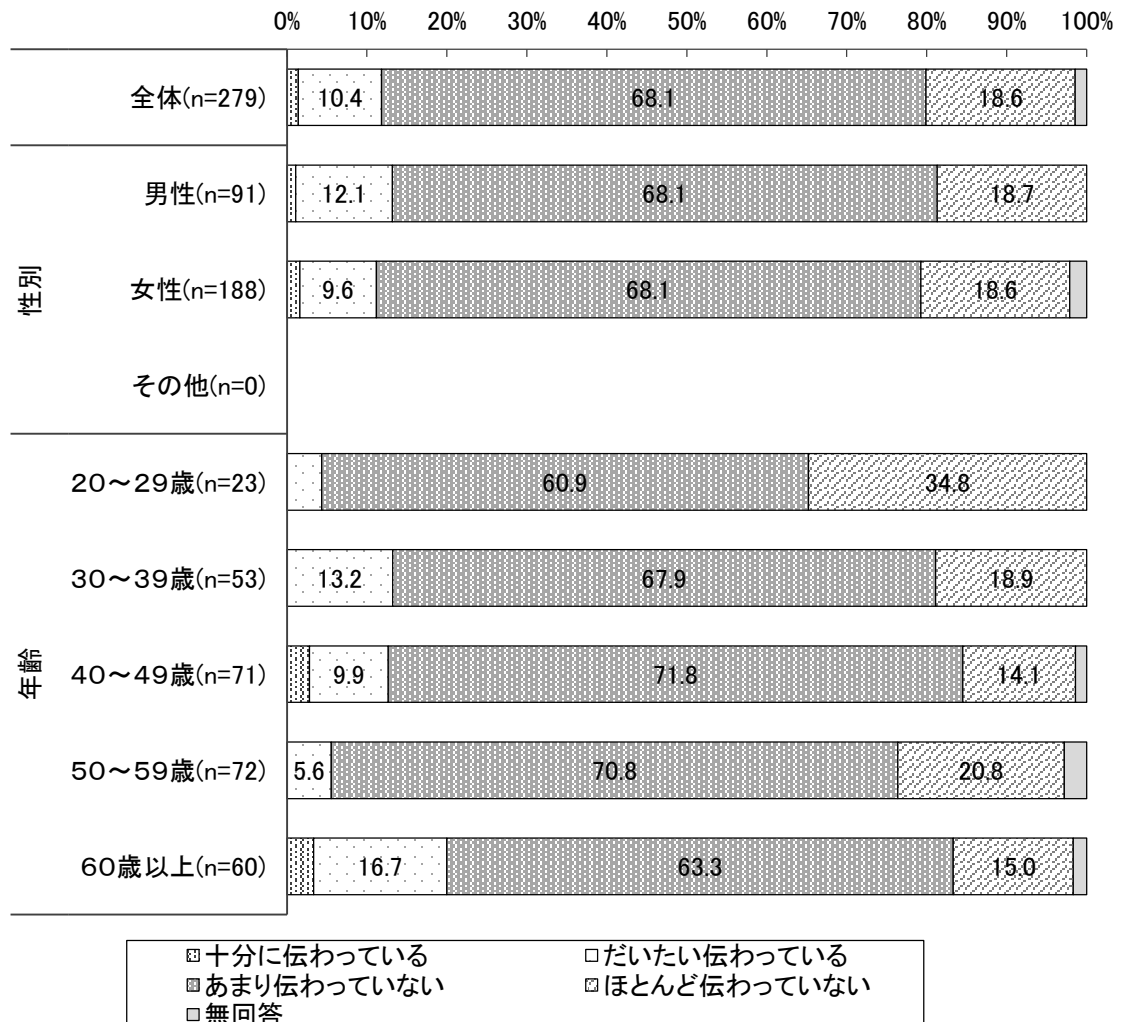
問 17 あなたは、障がい福祉に関する情報が、市民に伝わっていると思いますか。

(1 つに○)

障がい福祉に関する情報の市民への伝達は、全体で見ると「あまり伝わっていない」が 68.1% と最も高く、次いで「ほとんど伝わっていない」が 18.6%、「だいたい伝わっている」が 10.4% となっています。

属性別で「ほとんど伝わっていない」の割合をみると、年齢階級別では 20～29 歳が 34.8% と最も高くなっています。

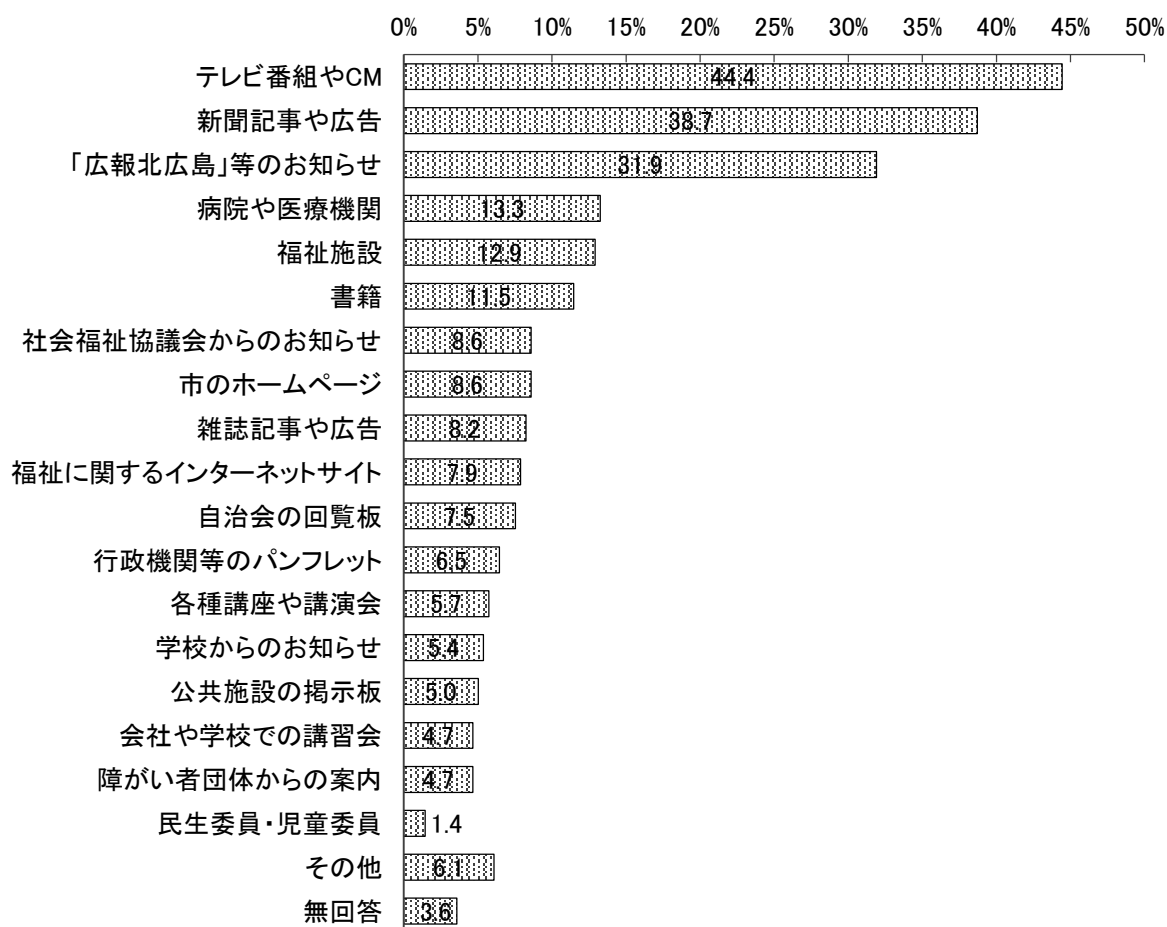
【障がい福祉に関する情報の市民への伝達】



問 18 あなたは、障がい福祉に関する情報を、どこから知ることが多いですか。
 (いくつでも○)

障がい福祉に関する情報の入手場所は、全体で見ると「テレビ番組やCM」が44.4%と最も高く、次いで「新聞記事や広告」が38.7%、「『広報北広島』等のお知らせ」が31.9%、「病院や医療機関」が13.3%となっています。

【障がい福祉に関する情報の入手場所】

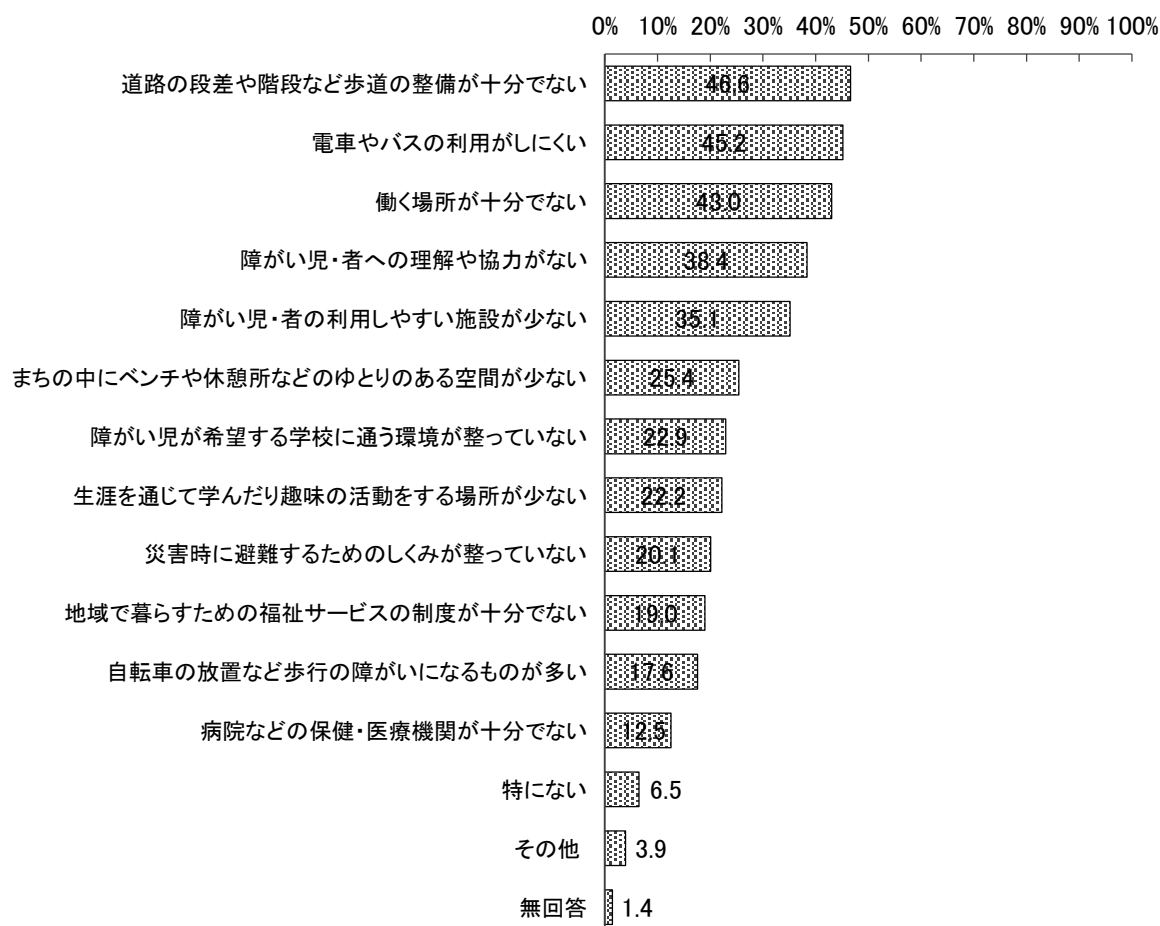


(n=279)

問 19 現在お住まいの地域の中で、障がい児・者にとって暮らしにくいのはどのようなことだと思いますか。(いくつでも○)

地域の中で障がい児・者にとって暮らしにくいと思うことは、全体で見ると「歩道の整備が十分でない」が 46.6%と最も高く、次いで「電車やバスの利用がしにくい」が 45.2%、「働く場所が十分でない」が 43.0%、「障がい児・者への理解や協力がでない」が 38.4%となっていま

【地域の中で障がい児・者にとって暮らしにくいと思うこと】

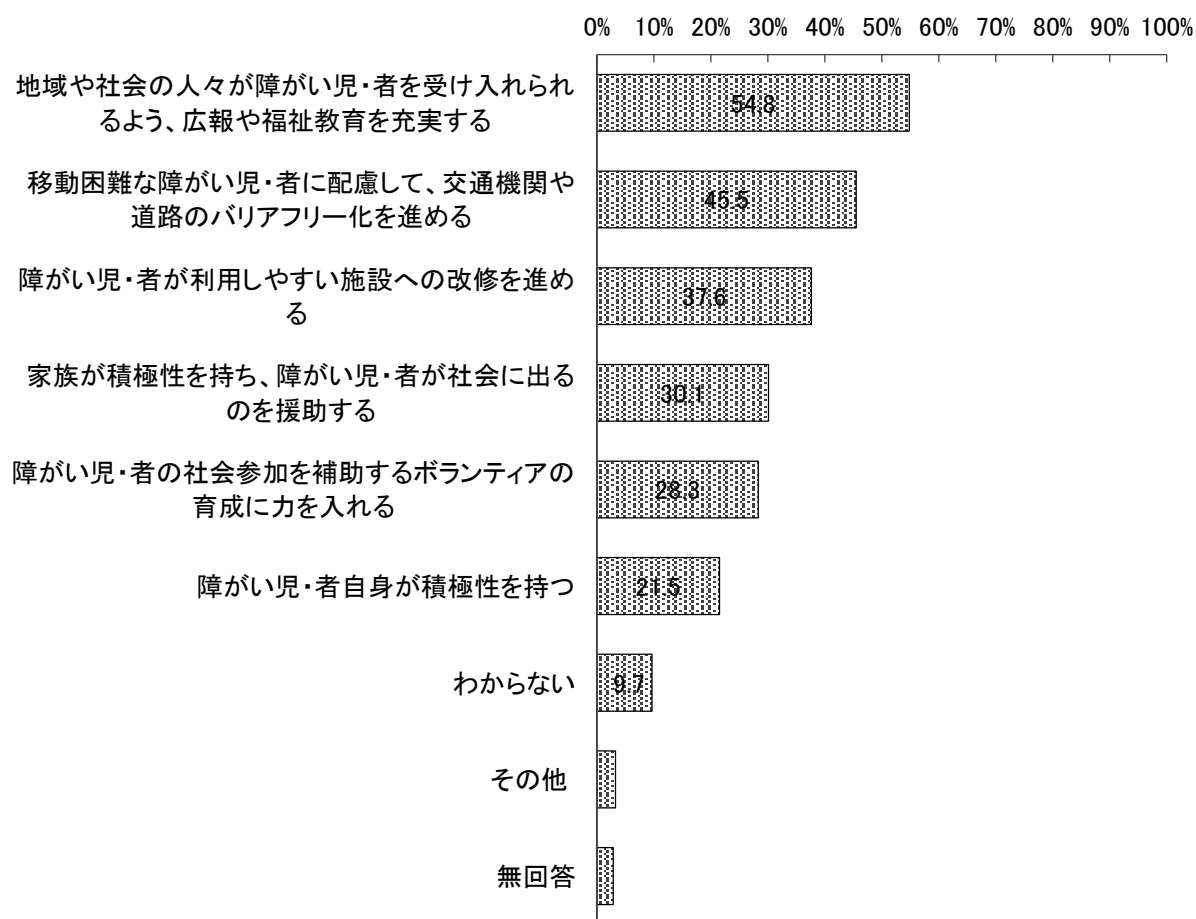


(n=279)

問 20 障がい児・者が地域や社会に積極的に参加できるようにするために、大切なことは何だと思えますか。(いくつでも○)

障がい児・者が地域や社会に積極的に参加できるようにするために大切なことは、全体で見ると「地域や社会の人々が障がい児・者を受け入れられるよう、広報や福祉教育を充実する」が54.8%と最も高く、次いで「移動困難な障がい児・者に配慮して、交通機関や道路のバリアフリー化を進める」が45.5%、「障がい児・者が利用しやすい施設への改修を進める」が37.6%となっています。

【地域や社会に積極的に参加できるようにするために大切なこと】



(n=279)

自由記入設問 記述（全文）

自由意見は記入された方の意図がそのまま伝わるよう、可能な限り原文を尊重して掲載していますが、明らかな誤字・脱字と思われる字句は修正しています。また、本アンケートの趣旨と異なるものや、個人(団体)が特定できる記述、誹謗・中傷等は削除しています。

問 21 障がい児・者の福祉に関して、どういうところに力を入れてほしいですか。

- ボランティア以外の支援者の育成 ・ 行政が行政の枠を拡げること 健康者、障がい児、者の視覚（心の視覚）に優しい環境創り
- 自立のための支援が大切と考えます。・ 障がい児、障がい者との交流の場が増えると良い。・ 広く関心を持ってもらう。
- 社会全体として、人の心に余裕が少なくなってきたと感じます。また、心ない言葉をインターネット上で見るたび、まちの人のホンネはこうなのかなと悲しくなります。障がいについての理解が深まるような施策を期待します。・ ハード的なバリアフリーは公共にしかできないことが多いと思うので、そちらもしっかり取りくんでほしいです。
- 通常の生活を送る為のサポート ・ レクリエーションを当たり前地域でできる体制 ・ 見た目や行動やその障がいの理解をする機会の確保 ・ 障がいをもつ方が先生となって家族等と情報を発信し活やくしてほしい。
- 10年前に比べれば、TVなどで話題になることが多いので、障がいのある方々の困り感や、周囲にわかりずらくとも障がいを持っている方が多いことなどは認知されている気がします。しかし、差別や差別を助長する事件などは後をたたく、支援機関や施設・事業所が増えているにもかかわらず（増えているからこそ？）新たな問題も増えているのではないのでしょうか。障がい者が地域で当たり前暮らし、助け合っている社会になればと思います。
- ①障がいの方が、地域で暮らすことによって社会との関わりを増やし、より一層生きがいを持ち、豊かさを感じると思います。その為にも、地域の中に障がいの方が主体的に活動できる生活の場（中規模な共同施設）の設置を拡大してほしいと考えます。
②雇用センター等の拡充により、障がいの方が能力、適性にあった就労の機会を増やし、社会経済活動を通して生きがいや豊かさを感じ社会の一員として活躍していただきたい。
- TV・インターネット・TV・ニコニコ動画・アメーバTVなどでスポンサーになってCMを流したり番組を流したりしたらどうでしょうか。若い世代に向けてがんばっていただきたいです。

- このアンケートを通して事実を知らない自分が分かりました。恐らく障がいのある方からすると住みやすい環境でない状況の方多いのではと思います。では何がダメなのか？今後は生活の中から感じてみたいと思います。ありがとうございます。
- ご近所に気分障害の方がいて、たまにお茶をしたりランチに行きます。病院に行っていますが、家にずっといます。ご自分が気分障害だと知られたくないそうです。病気は2年位でだいぶおちついてきている様です。私や近所の友人と話すだけではたりないように思え、北広島市で障がいを軽減するためのリハビリや気分てんかんできる場があると心がはれたり、考えすぎが良くなるのかと思います。家にずっといると同じ事を考えてしまい頭がやすまることがないようです。気楽に参加できる手芸やとうげいなどがあると良いと思います。
- どんな方にも住みやすい街にしてほしい。環境等が整うともっと積極的に関わることができると思います。
- はっきりと的を得たことはいえませんが、私は身内に発達障がいの子が2人います。1人は支援級に所属し、1人は普通級ですごしています。支援級はそれなりの対応があるかとは思いますが軽程度、またはグレーゾーンの子は普通級にいることも多いと思います。そういう子供達をどう支援していくのかももっと考えてほしいと切に願います。
- まずは理解をして下さい。頭だけでなく感じる等、地域にいる障がいのある方が何かに拘る、大声や多動をしてるとします。一般の方から見れば「？」より「嫌」という感じが出ます。それは仕方ないです。でも本人達からすると何か理由があったり、どうしてもゆずれない、やらないとダメなど必ず持っています。一般の方もそうなる事の1つや2つあるように彼方もあります。手伝う、支援するなど手をかけるのではなく見守って下さい。もし今後何かが必要なら支援のはばです。何が出来るのかではなく何を必要としているのかも考えて下さい。何かこのアンケートも正直イヤです。全体的に一般≠障がい者、一般>障がい者の様に感じます
- まず障がい者はお風呂に入って清潔にしてほしい。そばに近づくとかさい人がほとんどです。障がいがあっても清潔でなければイヤです。本音と建前のギャップが多すぎる。このアンケートも建前論を作る事なのかと思ってしまう。
- もっと多くしせつを作ってほしい。
- やってあげるという上から目線ではなく共に生きるという考え方が大切だと思う。
- 一言では語れませんが、自分は仕事上下宿に知的障害の方あるいは軽度の身体障害を持つ方を受け入れて施設長として働いていますが、まず多くの方が障害者目線で考えていない、わずらわしいと言う気持ちがあるのではないのでしょうか。共に歩むと言う考え方をより多くの市民に訴える方法を考え、健全者・障害者の壁を取り除く事が先決で意識改革にもっと力を入れるべきではないのでしょうか。バリアフリー化も大切ですが、弱者に対し自分は何が出来るかの方が…

- 一般社会とのつながりやふれあいの機会を今以上に多くすること
- 一歩家庭の中に入り実状を知るよう市、行政の働きを期待したい。
- 皆が一緒に暮らせる為にいつも考えられる優しさがあれば障がいは少なくなるのではないのでしょうか。「福祉の街」であることを教えてもらい成長しました。直接仕事でたずさわることありますが「仕事」ではない部分でも人と人とのつながりやそれぞれの心の豊かさを育みたいものです。それは大人も子供もです。北広島市は比較的その豊かさがあるように思います。大切に守っていきたいです。
- 学校を卒業すると利用できる施設が思ったより少なく人が多い為利用できない、送迎できないなどが現実。もう少し18才以上の利用する所を増やしてほしい
- 関われる人がいない限り、支援したい活動したいと思うことはあっても具体的な思いや策がでてこない気がする。最近、自分の回りの出来事で、無関心だったのかと反省することもありました。動いてみても、自分一人の力で継続できることにも限界があり、やはり、子供のことには小さい時からみんなで意識してが大切なのだと思いました。
- 教育関係についてもっと力を入れるところ通級などの場が少ない
- 銀行、店舗、病院など、日常の暮らしていく中で目で見えてわかりにくい聴覚障がい者は、対応してもらいにくいと感じます。又、障害者であっても、どこにも属していないものはその行事などの情報を得にくいと思います
- 健常者（児）が障害者（児）を特別視せず、当りまえに受け入れることができるような人間教育が必要だと思う。具体的には、小さい頃からいっしょに過ごす経験を多くもち、健常者も障害者も困ったら助け合い、いっしょに楽しみ、笑いあえるような関係を築くことができれば良いと思う。
- 健常者ともっと普通に接することができるようになること
- 健常者自身に生活等における余裕がなく障がい児者への気遣いが十分にできない現状があると思う。経済的に恵まれてる市職員が率先して理解に努めてほしい。特に法定雇用率を超える採用を市で行ってほしい。又正規でなくても雇用を創出してほしい。北広島にある高等養護の生徒を積極的に市の仕事に就労させる等の配慮があっても良いのではないのでしょうか？支離滅裂ですがとにかく問12の“仕事と収入”だと思います。宜しくお願い致します。
- 現在私自身健康な身体ですが、いつ身体に不自由が生じるかも知れないと思うと、障害を持った方と接する機会が足りないと感じました。
- 交通機関の充実
- 交流の場を増やしてほしい。
- 広報などで障害の種類やどの程度行動やコミュニケーション出来るかの情報を市民に対してどういうボランティアが必要なのかアピール
- 今はよくわかりません

- 今回頂いたアンケートをきっかけに「障がい福祉」に関して市のHPにて検索し、若干調べました。自身の周りに障がい児・者がいない為「障がい福祉」に関して全く無知でした。(私の個人的な意見ですが)障がい福祉サービスについてもっと沢山のの人に知ってもらう機会を作ったほうがいいと思います。健常者の方にも障がい福祉に関して知ってもらうと障がい児・者の方がもっと過ごしやすい世の中になるとと思います。
- 今後は老人が増え認知症者が確実に増えるので、その対処のためにあらゆる場面での公共の力が必要である。障害者を含めその部分もぜひお願いしたい。
- 今働いている職場でもっとりかいして給与がボーナスあったらいいと思う。私はまだマシだけど妹の働いている所ももっともらえればいいなと思います。ちなみに私は200円に上がりました。よんでくれてありがとうございます。
- 最近、全国で多い災害ですが、もちろん一般の方達と平等なのですが、動けない方や、病院へ必ず行かなければならない、障がい児・者の方を救助を優先してくれるのか、どうかという不安はあります。
- 子供たちが不思議な目で見るとは仕方ないと思うが、その親たちの対応が気になります。
- 子供達ももっと障がいのある方とも交流してほしい。
- 市の方が上に立って、市民全体に障がい者・児に対して理解を得る・深める活動を沢山する。
- 市民に障がいの内容を知る機会を作ってみんなに意識させる事に力を入れてほしいです。
- 施設の改修、バリアフリー化も大事だが、周りに障がい者がいることを知ってもらうことが必要。市内にどれ位の数の障がい者が居るのかも分からない。たまたま買い物中の車イスの人を見るが、盲導犬を連れてる人、手話筆談が必要な人等は見たことが無い。頭の中では知っていても、障がいにも個人差があるので実際に目の前にすると不安になって何もできなくなると思う。障がいを持っている人が、周りに必要な事や物は何か知りたい。
- 私は幼稚園で働いています。学習や発達の障がいがある子やそのうたがいのある子が何名かいます。早期発見をして就学する前に支援行っていくことが大切だと障がい児支援の方に言われました。なかなか保護者の方も受け入れられなかったり、ショックを受ける方が多いのが現実です。そういったこともあるので、色々な方にもっと「障がい」というものを理解してもらうことが重要だと思います。又それを支援サポートしていく環境作りに今後力を入れていって頂けることを願います。
- 視覚障害のボランティアをしていましたがほんとうに目がみえない人にとっては不便なことが沢山あります。道路の段差であったり歩道の整備であったり北広島市で出来ることはそういう方々から意見を伺い少しでも不自由さがなく生活できる社会にしてほしいと思います。よろしくお願い致します。

- 自然に一般の方と同じように接する機会、お話しする機会を小さいときからもつ。話してみると私たちと何も変わらない体は不自由だが心はイキイキ輝いている人たちが沢山いることを知ってほしい。いくら整備しても心の中に差別あれば無意味。四の里の障がい者の方の市営住宅の部屋のドア（ひき戸）はとても重く使いにくいお風呂も深すぎる。作るのならヒアリングを何度もして本当に喜ばれるものを作ってほしい。形だけ作りませんでしたではゲンナリだ。
- 自分やまわりの方が障がい児や障がい者になった時手助けをしてくれる人が多ければ安心だと思うし金銭的な面でも不安なので支援してもらいたい。
- 自立した生活ができるよう社会や地域で協力、支援ができるようにしてほしい
- 車イスの利用時の道路の路面の整備、冬道での路面の整備
- 住宅のバリアフリー化への支援。身体障がい者用自家用車の紹介、購入費支援等障がい者が自立して生活していけるような支援
- 障がいがあるということによって仕事や結婚が不利になることが多いので、地域住民にもっと障害への差別や偏見をなくすための教育を徹底してほしい
- 障がいが高く自立が困難な人ほど様々な面で選択肢が少なく希望しても断られてしまうことが多い。社会参加をしたくても介助やサービスに制限があるので安心してお願いすることが出来ない。家族の負担は子供が成人しても減るわけではない。
- 障がいに対する意識をもう少し高めるための講演会（会社や学校）をやってほしい。中にはどのような障がいなのかわかっていないものもあるので実際に来てもらって講演していただくと知識も深くなって少しは関心をもってもらえるのではないかと思います。あと、道路の段差や歩道の整備をしてもらいたい。
- 障がいのある方が、幸せに生活する事はもちろんあたり前で大切な事と思います。北広島市が福祉に力を入れているイメージもあります。他の市町村がどのような感じなのかは不勉強のためわかりません。近年、グループホームのような感じで障がいのある方が多く生活しているように感じます。そのように生活できる方は比較的、障がいの中では軽い方なのかな…と思います。一見して障がいのあるのかないのかはわからない方が多くいらっしゃるようになっております。過去に娘が、男性に遠まきではあったようですが、ついて来られた事があり、結果的には被害というほどの被害はなく（ついてきていてこわかったくらいで）「障がいのある方だった」で終わりました。学生であったため、学校に相談し、多分学校から警察の方にもお話しがいったと思うのですが、詳しい説明はなく、私の受けたイメージは障がいのある方だから仕方ないねという感じでした。福祉活動に反対する気はありませんが、もちろんすべての障がい者がそのような行動をするわけではないのもわかってはいますが、障がいのある方が守られ、万が一娘が被害にあってしまったら…と思うと「先生！ウェルカム！障がいのある方集まって！」とは思えません。知らないうちにグループホームや障がい

のある方がふえ、娘に気をつけるように言うのは偏見や差別と言われそうですね。障がい者ではない、一般市民も安心してくらせるまちであるように…。

- 障がいのある方が社会参加できる社会であれば良いのです。行政として社会の現状を分析しさまざまなチャレンジが出来る環境を整える事に力を入れてほしいと思います。私達の一部分しか参加出来ない社会であれば障がいのある方が参加できる社会ではないと思います
- 障がい児・者と病院で会ったことがあります。障がい児・者計4人に対しサポートする方は1人でした。その際受付する時に1人の方が大声を出し暴れてしまい、周りで待っていた人に迷惑がかりました。その対応をしてる間に、もう1人の人が病院から出て行ってしまったりと、サポートする人はとても大変そうでした。人手不足なのかもしれませんが、その行動1つで偏見に見られてしまう可能性もあると思います。4人に対して1人ではなく、2人以上サポートする方がいても良いと思います。
- 障がい児・者のことを社会でもっと理解が進んでいくようにしてほしいです。また、働ける場所が多くあったらなあとも思います。
- 障がい児を育てる保護者の生活状況を確認し、困っている事がないか、障がい児のために利用できるサービスを適切に利用できているか、情報がいき届いているか情報を活用できているか、活用できていないのは何故なのか。保護者への支援はどうしたらよいかを地域だけではなく行政の手を入れて障がい児が生きやすい環境作りを、保護者支援の視点からも行ってほしいです。特に親にも障がいの疑いがある場合、支援を手厚くしてほしいです。
- 障がい者（知的）の娘にはよくわからない質問です。フリガナもふってないし内容がむずかしすぎます。こういう質問を知的障がい者に記入させるのは無理ですよ（親より）福祉課じたいわかっているんですか？自分の身内にいるつもりで考えてほしいですね。
- 障がい者がくらしやすいということは社会的弱者（お年よりや、任婦さん、小さな子供）も住みやすいことだと思います。スピード優先、動けることがあたり前だと思わず、バリアフリーになってくれればと思います。
- 障がい者とその他人が数多く出会う機会を作る事がその他の意識を変え共生生活を育てて行く事になると思います。その為には障がい者参加出来る催し物を増やす事で主催者に対して行政が障がい者が参加する際の●●を解決する為の支援を行う事です。具体的には●●●●・補助ボランティア・保育援助者の派遣・障がい者対応マニュアル・講演会開催など。
- 障がい者に対し身体面と精神面等各々同様に考えている方が多く教育の場を通して（幼い頃から）最低限のマナーや理解の場があると良いのではないかと思います（白杖を持っている方への配慮やマナー障がい者の方が触れて欲しくない又は怖いという不安等少しでも時間と機会があると良いのでは…）最近障害者がひとりでも外出など

出来る様支援と言われてもいますが実際公共の乗物職員の方の人手不足もあり心のない言葉が多いです。身近なタクシー会社から福祉に協力して頂けたらとも思います。
(まとめ悪く伝わらないかも知れませんがよろしくお願い致します。)

- 障がい者の就労について一言申し上げます。私は事業主ですが、1人たりとも戦力者以外雇用するのに余裕などありません。失礼な言い方かも知れませんが、障がいの方の範囲にもよりますが、やはり一般の方と同等な仕事が出きるとは思えなく、会社又は他のスタッフに負担がかかることを想定すると受け入れが難しいと考えてしまいます。これらを補えるシステムがあれば、積極的に受け入れ等を考えて行きたいと思えます。何か力になりたいとは日頃考えております。
- 障がい者自立支援法など反発もあるようだが、「特別」扱いではなく、より自然に社会になじんだ生活が送れるよう援助だけでなく世間の偏見を取り除く事も必要かと思う。国も財政難であろうといきなりつき離すような事は絶対にあってはならないと思う
- 障害児・者が入所、利用する施設への補助金を増やして、運営が円滑にできるようにしてほしい。障害児・者を支える担い手の賃金を上げてほしい。
- 障害児・者に対してだけではなく関わる人々に対して障害児・者に対する接し方の教育をもっと行うべきだと思う。
- 色々な所で働き手が不足しているので障がい者で働ける方や意欲のある方の斡旋してほしい
- 色々な場所へ自由に行って楽しめる、健常者とふれあえる機会も増やしていけると、障がい者の事を知る機会も増えるかなと思う。知る事で何かしたいと感じたり、考えたりするきっかけになるかと思えます。
- 親が高齢になった場合子どもの自立援助（子供が障害あり）
- 身近に障がいのある人がいないとなかなか福祉に対して関心が持たれないと感じます。幼い頃から障がいのある子（保育園で接していた）と接していると手助けするのは当たり前と感じている我が子を見ていると幼い頃からふれ合う機会や教育環境を増やすべきと思います。またどんな場所で手助けが必要とされるかなどより身近に感じてもらえるようなポスター等があると自然と困っている人に対応しやすくなるのではと思います。よりどんなことが必要とされているのかももっと知ってもらえるようなPRしていくべきだと感じます。
- 身近に障がい児・者がいないので北広島市がどのような活動をしているかよく知らないのだから気にするようにしていきたいです。
- 身内に障がい児がいます。障がい者が通う学校に行ってますがその先生にきびしい口調で指導されたそうです。そのような事を聞くとかわいそうに思います。
- 身内に対象者がいないことが一因かと思うが、私たち何をお手伝いすることが喜ばれるのか何をして欲しいのか対象者の方々の声を聞いてみたい。あきらかに困っている

方にはどなたでも声をかけますが判断しづらいこともあり見過ごしてしまうこともありました

- 正直よくわからない事が多いです。仕事でごく稀に関わる程度ですのでちょっとわかりかねます。
- 生まれた時からの障害、途中で発見された障害、事故によって起きた障害、障害を1つにまとめるのではなくそれぞれ区別して支援をしてほしい。言葉に失礼があったのならすみませんが、途中で事故によって障害を伴った者への支援について記載します。リハビリに通所したくても言葉の差別になります。知的障害の方々、他の人達との交流を少し考えてほしいと思います。仕事柄、色々な障害の方と接していますが、その障害に対しての支援が本当に少ない事に困惑してます。少しでも私達が協力できるサポートをします。
- 精神疾患のある家族がいる場合何かトラブルがあったときには恥ずかしさがあるため家族内で解決しようとする傾向があると思います。しかし家族内だけでは、知識不足や体力の限界があり適切に対応できません。家族だけで解決しなくても良いという認識や助けてくれる福祉サービスなどがあるということを広めて頂きたいです。また相談支援事業所が増えればと思います。
- 他人の目を気にしないでどこでも行けるようになる様に環境整備し、バリアフリー化を進めてほしい。
- 地域・職場の理解、関わり方を広める（障がいのある方が困っているのを見つけても、どう接してよいかわからない方も多い気がします）
- 地域住民の理解と協力が必要な為、もっと交流の場をもてる様、ボランティアの育成に努力してほしい。
- 中途失明は糖尿病罹患等から誰もが負う可能性のある障がいであるし、聴覚障がいも高度の難聴の進んだ高齢者であれば該当すると思う。つまり誰もが障害のある人になる可能性が高いし、精神科領域の障がいも同様だと思うので、私たち1人1人は「他人事」と思わずに思いを共有し必要ならば手助けをしてゆけたら良い。その為には小学校からの教育が大切。「差別をしていない～」と言いながら逆に小学校で障害児・者への理解や知識を明確に教えていない事自体が差別ではないのか？正しい知識を持つことは障害児・者を理解し万が一自分が当事者になった時に役立つ最大の方法だと思う。
- 特別支援学級の子供が普通級との交流授業へ沢山行けるようにしてほしいです。先生、支援員さんが少なく、交流に行けない時があったりするようです。普通級の子ども、特学の子どもが共にお互いのコミュニケーションを取り学ぶ機会、大人になり社会へ出た時に当事者（障がいのある人）とのかかわり方を学ぶ為にも必要だと思います。支援員さん、先生を増やしてほしいです！お願いします！

- 発達障がい児（主に学習面）の子に対する普通学級での対応は冷たいと思います。「宿題で分からない所があったので夜遅くまでかかって泣きながらやりました。学校でも少し教えて頂けませんか？」との問いに「基本的には教えません。小さい数であれば出来たと思います。みんなにもその様に指導しています。」との答えでした。今の先生は授業以外は教えてくれないのでしょうか？たぶん、普通学級で分からなければ支援学級へと思っているのでしょうか。しかし、学習面以外は問題なく皆とコミュニケーションをとり楽しく生活出来ているのに支援級に通わせなくてはいけないのか？とも思います。なので普通学級での学習面に不安のある子への対応、理解（家でも塾に通ったり、親が教えたりしている）担任2人制などお願いしたいです。
- 福祉、補助の資金的な援助金銭面の負担を出来るだけ軽くしたい。周りの人からの差別的な視点を軽減できるような取組をしてほしい。
- 福祉施設で介護されてる方の暴力がニュースになっててもし、自分の兄と弟がこんな事になったらどうなるのが不安です。後は、祭りとかで障害を持った子達でイベントなので、交流を入れたらどうでしょうか？そしたら地域の人や障害を持つてる人と関わる事が多くなるので良いと思います。後は、精神障害者への理解ももっと知っていただける施設もつくって欲しいです。では、失礼します。
- 補助者必要なひとにはボランティアの育成が必要でありそうでない人は、働く場所を確保して自立できるように援助する必要があると思います。
- 北広島に大きな病院がほしい。どうしても札幌にある病院にかかり、乳幼児医療が使えず、後日精算になることが多いので、せめて、使えるようにしてほしい。
- 北広島は“福祉の街”にしてはあまり市民には意識が薄いと思います。又障害児、者と健常者と隔てるのがおかしい！小学校の時から子供にも一緒にさせて、言葉じゃなく体感、経験させた方が協力したり、助け合う気持ちが育ち、大人になっても絶対に役に立つし優しい人が育つと思うので大人の考えからでは無く子供の力を信じ、サポートするのが大人の役割りだと思います。一緒に楽しむイベントも少ないと思います。
- 北広島は充分に行政と地域の方達に援護してもらっていると思います。交通機関や道路、補道がバリアフリー化されると、障害者と健常者との差がもっとなくなる様な気がします。
- 北広島市は他地域に比べ西の里地区などのノーマライゼーション等を含め手厚く対応されていて暮らしやすいと思う。今後も従来通りで充分だと思う。障がい児・者にとって住みやすい街だと感じています。
- 北広島市内に重度障害者の入所施設を増やしてほしい。希望日にショートステイできるよう施設側の人員確保
- 問20の回答の通り施設利用の為の交通整備等が必要と思う。

